

2 年 次 科 目

目 次

専門支持分野

- 01_栄養学 (必修・後期)
- 02_病理学 (必修・前期)
- 03_微生物学 (必修・前期)
- 04_薬理学 (必修・前期)
- 05_臨床薬理学 (必修・後期)
- 06_臨床医学論 I (成人・高齢者)
(必修・後期)
- 07_臨床医学論 II (小児・産婦人科・精神)
(必修・後期)
- 08_地域保健 (必修・後期)
- 09_家族社会学 (選択・前期)
- 10_臨床心理学 (選択・前期)
- 11_疫学 (選択・後期)

基礎看護学分野

- 12_看護援助技術IV (フィジカルアセスメント)
(必修・後期)
- 13_看護援助技術V (看護過程)
(必修・前期)
- 14_基礎看護学実習 II (必修・後期)

専門実践分野

- 15_成人看護学概論 (必修・後期)
- 16_高齢者看護学概論 (必修・後期)
- 17_小児看護学概論 (必修・前期)
- 18_母性看護学概論 (必修・前期)
- 19_母性看護援助論 I (必修・後期)
- 20_精神看護学概論 (必修・後期)

看護統合分野

- 21_在宅看護概論 (必修・後期)
- 22_公衆衛生看護学概論 (必修・前期)
- 23_国際看護学 (必修・後期)
- 24_看護学研究 II (必修・後期)

教養・基礎分野

- 25_医療コミュニケーション学
(必修・前期)
- 26_医療統計学 (選択・後期)

講義コード	1N21400
講義名	栄養学 03
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
科目分類名	専門支持分野
科目分野名	形態機能学科目
対象学科・年次	看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 小武家 優子	健康・環境衛生学講座 衛生化学分野
助教	古賀 貴之	健康・環境衛生学講座 衛生化学分野(漢)

一般目標(GIO)

本講義では、栄養学の基礎から応用までを理解し、実践へ繋げることを目的とし、人間の健康における栄養の摂取の意義と機能について、内部環境や代謝の機能を基盤として理解させる。さらに、人間のライフステージの各段階における食事摂取基準と栄養状態の判定を理解させる。また、健康障害と食事療法の実際を学び、栄養管理に必要な知識を学ばせる。

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー: (2)

- (1) 栄養の摂取の意義に関し、栄養学の基礎、さまざまな栄養素の種類とはたらきを系統的に説明することができる。
- (2) 食物の消化と栄養素の吸収・代謝について、解剖生理学・生化学とのかかわりについて説明することができる。
- (3) 人間の成長や健康に食生活と栄養がいかに深く関わっているか、食事と食事摂取基準、食品とその調理について説明することができる。また、食の安全性と表示についても説明することができる。
- (4) エネルギーについて、エネルギー出納、代謝、エネルギー消費について説明することができる。
- (5) 栄養ケア・マネジメントについて理解し、栄養アセスメント、栄養状態の評価・判定の指導に活かすことができる。
- (6) 乳幼児から高齢期の各ライフステージにおける栄養摂取の要点について理解し、指導に活かすことができる。
- (7) 生活習慣病と栄養、疾患と栄養食事療法について理解し、指導に活かすことができる。
- (8) 食生活の変遷と栄養の問題点、食生活改善への施策、食事摂取基準(2015年版)等について説明することができる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	小武家 優子 古賀 貴之	人間栄養学と看護	栄養学を学ぶ意義、保健・医療における栄養学 食事における看護師の役割、チーム医療、地域医療における栄養ケア	講義
第2回	古賀 貴之	栄養素の種類とはたらき1	3大栄養素の種類とはたらき、糖質、脂質、タンパク質のはたらき	講義
第3回	古賀 貴之	栄養素の種類とはたらき2	ビタミン、ミネラルの種類とはたらき、カルシウムと鉄の代謝、食物繊維、食塩、水分の摂取	講義
第4回	古賀 貴之	食物の消化と栄養素の吸収・代謝1	糖質とタンパク質の消化・吸収、消化酵素、輸送体、脂質の消化吸収	講義
第5回	古賀 貴之	食物の消化と栄養素の吸収・代謝2	肝臓(栄養素の代謝・解毒作用)・腎臓(代謝産物の排泄)の働き	講義
第6回	古賀 貴之	エネルギー代謝	基礎代謝量、活動代謝量、動作強度、エネルギー平衡、アトウォーター指数	講義

第7回	小武家 優子	食事と食品	食生活・人間の食事と食文化、食事と食品、食品と調理、日本人の食事摂取基準	講義
第8回	小武家 優子	栄養ケア・マネジメント	チームアプローチ、栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画、栄養ケア・マネジメントの実施・評価	講義
第9回	小武家 優子	栄養状態の評価と判定法	栄養アセスメントとその歴史、栄養アセスメントの目的、栄養状態の評価と判定法	講義
第10回	小武家 優子	ライフステージと栄養1	乳児期から青年期までの栄養補給の特徴と注意点、吸綴反射、嚥下反射、溢乳、母乳栄養、人工栄養、離乳食、先天性代謝異常、低栄養、脱水症、スキヤモンの発育曲線、食育、肥満、るい瘦、第二性徴、摂食障害	講義
第11回	小武家 優子	ライフステージと栄養2	成人期から高齢期までの栄養補給の特徴と注意点、健康日本 21、妊娠、授乳、更年期障害、生活習慣病、咀嚼機能、嚥下機能、萎縮性胃炎、低栄養、脱水症、褥瘡	講義
第12回	小武家 優子	臨床栄養1	チームで取り組む栄養管理、一般食と特別食、循環器・消化器・腎臓疾患等の栄養管理	講義
第13回	小武家 優子	臨床栄養2	代謝・血液疾患の栄養管理、食物アレルギー食、経腸栄養法、静脈栄養法、がんの食事療法	講義
第14回	小武家 優子	食生活の変遷と栄養の問題	生活習慣病予防、低栄養による体力・免疫力低下や症病治癒の遅延、食生活の改善への施策：日本人の食事摂取基準(2015年版)、保健・医療・福祉連携のチームワークにおける栄養ケア	講義
第15回	小武家 優子 古賀 貴之	健康づくりと食生活	食品と調理、食の安全性と表示、食生活の改善への施策	グループワーク

授業概要

本講義では、栄養学の基礎から応用までを理解し、実践へ繋げることを目的とし、人間の健康における栄養の摂取の意義と機能について、内部環境や代謝の機能を基盤として理解させる。さらに、人間のライフステージの各段階における食事摂取基準と栄養状態の判定を理解させる。また、健康障害と食事療法の実際を学び、栄養管理に必要な知識を学ばせる。

授業形式

教科書および配布資料(必要に応じて)を用いて講義形式で行う。また、適宜パワーポイントを使用して理解を深める。

評価方法

定期試験 80%、グループワーク発表 20%
グループワーク発表の評価方法は講義内で説明します。

教科書(ISBN 番号)

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 第13版(978-4-260-03861-4)

参考書

ライフステージ別栄養管理・実習 吉岡慶子、三成由美、徳井教孝 編著(建帛社)

オフィスアワー(授業相談)

小武家:月曜日 14:45~16:15(不在の場合も含めメールにて対応します。)
古賀:月曜日 午後1時~5時(不在の場合も含めメールにて対応します。)

学生へのメッセージ

予習、復習を常に実行して下さい。講義前にシラバスを必ず確認し、相当する講義資料の内容と教科書の中の該当箇所を予習しておくこと。特に、復習は重要です。

授業用 E-mail

y-kobuke@daiichi-cps.ac.jp

参考 E-mail 1

ta-koga@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	1N22100
講義名	病理学 03
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類名	専門支持分野
科目分野名	疫病基礎理論科目
対象学科・年次	看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小山 進	生命薬学講座 薬物治療学分野(漢) 医師経験あり

求められる基本的な資質

臨床における病態把握能力

一般目標(GIO)

病理学総論における5つの病態カテゴリー(代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍、先天異常)の知識を基礎として、臨床的に頻度の高い代表的な疾患の成り立ちを説明できる。

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー:(1)(2)(3)

※対応するカリキュラムポリシー:(2)

1. 疾患の理解を通して医師、薬剤師、保健師・助産師・看護師、検査技師、診療放射線技師などのメディカルスタッフと共にチーム医療の一翼を担う看護師として必要不可欠な知識を身につける。
2. 人体の構造と機能、生理学で学んだ人体の構造基本単位が、遺伝子、タンパク質、細胞、組織、器官、器官系、個体の階層構造を示しながらホメオスタシスを維持していることを基本に、疾患ではホメオスタシスが破綻し、階層の各レベルで変化が生じていることを説明できる。
3. 病因論、病変論より構成されている病理学総論の各事項について、最新の生物学の知見に基づき説明できる。
4. 病因と病変から疾患の成り立ち、進展あるいは治癒経過、合併症・後遺症などを学び、健康と疾患について説明できる。
5. 人体の構造と機能、生理学の知識を基に様々な疾病における臓器・組織の変化を学び、疾病の本態を理解し、疾病の診断を確定するための検査などについて総合的に説明できる。
6. 病態に特異的な組織学的変化の基礎を説明できる。
7. 医療におけるイメージング技術(画像解剖学)の重要性を説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	小山 進	病理学とは	病理学総論、病理標本、病理診断	講義
第2回	小山 進	代謝障害(1)	肥大、萎縮、各種変性(タンパク、糖原、脂肪、色素、無機質)	講義
第3回	小山 進	代謝障害(2)	壊死の分類(凝固、乾酪、融解)、アポトーシス	講義
第4回	小山 進	循環障害(1)	充血・虚血、うっ血、浮腫、出血	講義
第5回	小山 進	循環障害(2)	血栓、塞栓、梗塞、DIC(播発生血管内凝固)	講義
第6回	小山 進	炎症(1)	急性・慢性炎症、炎症の分類(漿液性、化膿性、肉芽腫性)、アレルギー(自己免疫疾患、免疫不全)	講義
第7回	小山 進	炎症(2)	創傷治癒(肉芽、線維化、瘢痕)、びらん・潰瘍、過形成、化生	講義
第8回	小山 進	炎症(3)	感染症(ウイルス、細菌、真菌、寄生虫)	講義
第9回	小山 進	腫瘍(1)	腫瘍の組織型、良性腫瘍と悪性腫瘍、分化度、異形成、癌腫と肉腫	講義

第 10 回	小山 進	腫瘍(2)	代表的な腫瘍(臓器別)	講義
第 11 回	小山 進	先天異常と老化	先天異常とは、老化の機序	講義
第 12 回	小山 進	病態解析(1)	炎症性疾患(1)	講義
第 13 回	小山 進	病態解析(2)	炎症性疾患(2)	講義
第 14 回	小山 進	病態解析(3)	代謝・変性疾患	講義
第 15 回	小山 進	病態解析(4)	循環器疾患	講義

授業概要

1. 病理学は、疾病の成り立ち、原因、経過などの側面を解明し、疾病の本質に迫ろうとする医学の一分野であり医療従事者には必要不可欠な知識である。特に看護師においては疾病を理解していることが検査・治療の遂行過程において非常に重要かつ一助となる要素である。
2. 本講では疾病における臨床病態の理解のための基礎となる病理学総論の学習に重点をおく。どのようにして病的状態がおこるかを解剖学、生化学、生理学などの知識を基盤としてさらにそれらを融合させて、疾病の発症するメカニズムおよび、その経過、転帰、診断・治療との関連性などについて、単純に記憶するのではなく、確実に理解することを目標とする。
3. 疾病の理解を通して医師、薬剤師、検査技師、診療放射線技師などのメディカルスタッフと共にチーム医療の一翼を担う救命救急士、臨床工学技士として必要不可欠な知識を身につける。疾病の原因、発症、進展経過あるいは治癒経過などを学び、健康とは何か、疾病とは何かを説明できるようにする。

授業形式

毎回パワーポイントによる授業を行う。

評価方法

定期試験(100%)で評価する。

教科書(ISBN 番号)

わかりやすい病理学(改訂第7版)監修:岩田隆子、編集:恒吉正澄、小田義直(南江堂)
(ISBN978-4-5242-2654-2)

参考書

指定なし

オフィスアワー(授業相談)

月曜日 午後1時～4時
不在の場合はメールにて対応する。
メールアドレス:s-koyama@daiichi-cps.ac.jp

学生へのメッセージ

予習:シラバスを参照して、教科書の該当疾患項目を通読する。
復習:授業で習った症例に関して、教科書を再度参照して知識を整理する。

備考

講義に使用するパワーポイントは PDF 版として、e-ポートフォリオの所定のフォルダーに格納しておく。

授業用 E-mail

s-koyama@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	1N22200
講義名	微生物学 03
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
科目分類名	専門支持分野
科目分野名	疫病基礎理論科目
対象学科・年次	看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 松原 大	生命薬学講座 免疫薬品学分野
准教授	小川 和加野	生命薬学講座 免疫薬品学分野(漢)

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー: (2)

- (1) 病原菌との戦いの歴史をとおして、感染症の現状を説明できるようにする。
 - (2) 病原菌の感染のしくみをしることにより、予防法について説明できるようにする。
 - (3) 医療の現場で感染症についてどのようなことに留意すべきかを説明できるようにする。
 - (4) 免疫のしくみを理解し、いろいろな感染症に対してどのように関連しているかを説明できるようにする。
 - (5) 主な細菌感染症について知り、その検査・診断・予防・治療の方法について説明できるようにする。
 - (6) 主なウイルス感染症について知り、その検査・診断・予防・治療の方法について説明できるようにする。
 - (7) 主な真菌・寄生虫感染症について知り、その検査・診断・予防・治療の方法について説明できるようにする。
- 全体を通して、単なる知識の羅列になるのではなく、「医療現場での実際的な行動」につながることを意識して学修すること。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	松原 大	ヒトと感染症	微生物とは、微生物学の歴史	講義
第2回	松原 大	感染のしくみ	微生物の分類と感染症のしくみ	講義
第3回	松原 大	感染症の種類と現状	感染症に関係する病原体の種類と感染症の予防方法、治療方法	講義
第4回	松原 大	免疫のしくみ	感染症に対する免疫系のしくみ	講義
第5回	松原 大	医療における免疫の利用	血清療法による治療とワクチンによる予防	講義
第6回	松原 大	感染症の予防	滅菌と消毒、特に医療現場における消毒	講義
第7回	松原 大	予防接種と感染症関連法規	ワクチンの種類と接種法	講義
第8回	小川 和加野	細菌の分類と病原性	主な細菌の分類と基本構造、病原性、主な抗菌薬や薬剤耐性	講義
第9回	小川 和加野	主な病原細菌と疾患1	代表的な細菌の性質と疾病との関係	講義
第10回	小川 和加野	主な病原細菌と疾患2	抗酸菌、らせん菌、偏性嫌気性菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア	講義

第 11 回	小川 和加野	ウイルスの分類と病原性	ウイルスの構造、感染のしくみと予防	講義
第 12 回	小川 和加野	主な病原ウイルスと疾患	代表的なウイルスの性質と疾病との関係	講義
第 13 回	小川 和加野	真菌の病原性と疾患	代表的な真菌による疾病と治療・予防	講義
第 14 回	小川 和加野	原虫・寄生虫	代表的な原虫・寄生虫による疾病と治療・予防	講義
第 15 回	松原 大 小川 和加野	総括	第 1 回～第 14 回までの復習	講義

授業概要

さまざまな病原菌が疾病の原因になるが、それは細菌・ウイルス・真菌などである。これらをきちんと分類することにより、疾病の予防・治療が的確にできるようになることを目的とする。

免疫のシステムが、多くの疾病の予防・治癒につながっていることを説明し、医療現場での免疫に対する理解がいかに重要であるかを理解し、この分野の学修を今後さらに展開していく基礎を築く。

代表的な、細菌・ウイルス・真菌・寄生虫の性質をまとめることにより、将来の医療現場に立つ基本的な資質を獲得し、他の病理学などの理解につながるようにする。

授業形式

教科書の内容を中心に、パワーポイントを利用して講義を進める。

評価方法

■定期試験 定期試験 100%

教科書 (ISBN 番号)

「微生物学・感染症学」中野隆史(編著)(南江堂)(978-4-5242-3798-2)

参考書

イラストレイテッド微生物学 Richard A.Harvey(著)、松本哲哉・館田一博(監訳) (丸善出版)

シンプル微生物学 改訂第 6 版 小熊恵二、堀田 博、若宮伸隆(編) (南江堂)

オフィスアワー(授業相談)

火曜日 午後 1 時～5 時

不在の場合はメールにて随時対応

授業用 E-mail

matsubara@daiichi-cps.ac.jp

参考 E-mail 1

wogawa@daiichi-cps.ac.jp

講義コード	1N22300
講義名	薬理学 03
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類名	専門支持分野
科目分野名	疫病基礎理論科目
対象学科・年次	看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 有竹 浩介	生命薬学講座 薬品作用学分野
講師	濱村 賢吾	生命薬学講座 薬品作用学分野

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2)

※対応するカリキュラムポリシー: (2) (4)

- 1.薬物療法における看護師の役割について説明できる。
- 2.薬物が作用する仕組みと体内動態の基礎について説明できる。
- 3.薬物の副作用と相互作用について説明できる。
- 4.薬物の保管・管理と法的規制について説明できる。
- 5.薬物が各疾患の治療にどのように利用されるかについて説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	有竹 浩介	講義ガイダンス 薬理学とは 薬理学の基礎知識	講義の進め方、履修上の注意など 薬物による病気の治療、薬理学とは何か 薬力学、薬物動態学、薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子、薬物使用の有益性と危険性、薬と法律	講義
第2回	濱村 賢吾	抗感染症薬	感染症治療に関する基礎事項、抗菌薬、抗真菌剤・抗ウイルス薬など、感染症治療における問題点	講義
第3回	濱村 賢吾	抗がん薬	がん治療に関する基礎事項、抗がん薬各論	講義
第4回	有竹 浩介	免疫治療薬	免疫系の基礎知識、免疫増強薬・予防接種薬	講義
第5回	有竹 浩介	抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風・抗尿酸血症治療薬	講義
第6回	濱村 賢吾	末梢での神経活動に作用する薬物	神経系による情報伝達、自律神経系作用薬、交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬	講義
第7回	濱村 賢吾	中枢神経系に作用する薬物	中枢神経系のはたらきと薬物、全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬・気分安定薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬など	講義
第8回	濱村 賢吾	循環器系に作用する薬物	降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬	講義
第9回	有竹 浩介	循環器系に作用する薬物	利尿薬、脂質異常症治療薬、血液凝固系・線溶系に作用する薬物、血液に作用する薬物	講義
第10回	有竹 浩介	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	呼吸器系に作用する薬物	講義

第 11 回	有竹 浩介	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	消化器系に作用する薬物、生殖器・泌尿器系に作用する薬物	講義
第 12 回	有竹 浩介	物質代謝に作用する薬物	ホルモンとホルモン拮抗薬、治療薬としてのビタミン	講義
第 13 回	有竹 浩介	漢方薬	漢方医学の基礎知識、漢方薬各論、薬草園の見学	講義
第 14 回	有竹 浩介	皮膚科用薬・眼科用薬	皮膚に使用する薬物、眼科用薬 ※軟膏などの調製	講義
第 15 回	有竹 浩介	救急の際に使用される薬物、消毒薬、輸液製剤・輸血剤 薬理学のまとめ	救急に用いられる薬物、急性中毒に対する薬物、消毒薬、輸液製剤、輸血剤 薬理学のまとめ	講義

授業概要

薬学への招待での学びを基盤に、薬と生体の相互作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴・作用機序・人体への影響について学ぶ。また、漢方薬について西洋薬との違い、EBMに基づく漢方医療を学ぶ。そのために、ここでは薬理学の基礎知識を学習し、その後各論において薬剤の使用目的、作用、有害作用、禁忌などについて講義を進める。薬物療法においても、看護職・医師・薬剤師をはじめとする多職種連携は重要であり、患者に接する時間・機会が多い看護職は、的確な薬物療法を行うために必要な基本的な考え方(薬理作用、有害作用、与薬時の注意事項)を学び、医療事故防止に寄与することが求められている。ここでの学びを今後、臨床薬理学の学修へと進み薬物療法における看護援助につないでいく。

授業形式

教科書の内容を中心に、パワーポイントと配布補助資料を用い講義形式で行う。
講義の中に一部演習問題を取り入れる。

評価方法

■定期試験 定期試験 100%で評価する。追再試験を実施することがある。講評は、合格発表後に個別に対応する。

教科書 (ISBN 番号)

看護のための薬理学 南山堂 (ISBN978-4-525-14111-0)

参考書

臨床薬理学 メディカ出版
New 薬理学 南江堂

オフィスアワー(授業相談)

有竹:火曜日 午後1時～5時あるいは金曜日 午後1時～5時
不在にする場合、事前に掲示、講義を通して連絡、或いは授業用メールでも対応します。
濱村:月曜、金曜の13:00～17:00ですが、それ以外の時間でも質問は可能な限り受け付けます。不在の場合はメール(k-hamamura@daiichi-cps.ac.jp)にて対応します。

学生へのメッセージ

薬物名の単なる「丸暗記」ではなく、薬の効き方や副作用を「他人に説明できる」を意識して、深く理解することを心掛けて下さい。

講義コード	1N22400
講義名	臨床薬理学 03
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門支持分野
科目分野名	疫病基礎理論科目
対象学科・年次	看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小松 生明	医薬品化学・物性学講座 薬物解析学分野(漢)
講師	濱村 賢吾	生命薬学講座 薬品作用学分野

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー：(1)(2)

※対応するカリキュラムポリシー：(2)(4)

- 1.薬物療法における看護師の役割および役割拡大について説明できる。
- 2.医薬品の取り扱い、薬物治療の実際、チーム医療について説明できる。
- 3.対象者の障害時における薬物投与時の注意点と看護について説明できる。
- 4.対症療法薬における薬物療法の基本および看護師の役割について説明できる。
- 5.主要疾患における薬物療法の基本および看護師の役割について説明できる。
- 6.漢方薬における薬物療法の基本および看護師の役割について説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	小松 生明	講義ガイダンス 臨床薬理学と看護師 薬物治療の基礎	講義の進め方、履修上の注意など 薬物療法における看護師の役割および役割拡大 医薬品の取り扱い、薬物治療の実際、チーム医療と薬物療法、無菌製剤実習室、製剤実習室、調剤実習室見学	講義
第2回	小松 生明	薬物治療の基礎	小児期、周産期、老年期、臓器障害、精神・心身の障害時における薬物投与時の注意点と看護	講義
第3回	小松 生明	対症療法薬の臨床薬理学	解熱鎮痛薬、制吐薬、便秘治療薬、下痢治療薬における薬物療法の基本および看護師の役割	講義
第4回	小松 生明	対症療法薬の臨床薬理学	鎮咳・去痰薬、鎮静薬、睡眠薬における薬物療法の基本および看護師の役割	講義
第5回	小松 生明	主要疾患の臨床薬理学	高血圧症、急性冠症候群、心不全における薬物療法の基本および看護師の役割	講義
第6回	小松 生明	主要疾患の臨床薬理学	不整脈、抗血小板・抗凝固療法における薬物療法の基本および看護師の役割	講義
第7回	小松 生明	主要疾患の臨床薬理学	循環動態にかかわる持続点滴中の薬剤の投与と調整、栄養および水分管理にかかわる薬剤の投与と調整	講義
第8回	小松 生明	主要疾患の臨床薬理学	パーキンソン病、認知症(アルツハイマー病)、うつ病・うつ状態、てんかんにおける薬物療法の基本および看護師の役割	講義
第9回	濱村 賢吾	主要疾患の臨床薬理学	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)における薬物療法の基本および看護師の役割	講義

第 10 回	濱村 賢吾	主要疾患の臨床薬理学	胃・十二指腸潰瘍、胃食道逆流症、慢性肝炎における薬物療法の基本および看護師の役割	講義
第 11 回	濱村 賢吾	主要疾患の臨床薬理学	慢性腎臓病(CKD)、透析患者における薬剤管理における薬物療法の基本および看護師の役割	講義
第 12 回	濱村 賢吾	主要疾患の臨床薬理学	糖尿病、脂質異常症における薬物療法の基本および看護師の役割、インスリン量の調整	講義
第 13 回	濱村 賢吾	主要疾患の臨床薬理学	骨粗鬆症、関節リウマチにおける薬物療法の基本および看護師の役割、副腎皮質ステロイド薬における治療	講義
第 14 回	濱村 賢吾	漢方薬の臨床薬理学	漢方薬における薬物療法の基本および看護師の役割	講義
第 15 回	濱村 賢吾	臨床薬理学のまとめ	臨床薬理学のまとめ	講義

授業概要

薬学への招待、薬理学での学びを基盤に、この臨床薬理学は患者のための薬理学という視点から学ぶ。そのために臨床における看護実践に活かすための薬物治療の基礎、看護職が遭遇する機会の多い対症療法としての臨床薬理学、主要疾患の臨床薬理学及び漢方薬の臨床薬理学について講義を進める。また薬学部との協力を得、無菌製剤実習室、製剤実習室、調剤実習室見学や、臨床の場でよく行われている輸液やインスリン量の調整、副腎皮質ステロイド薬における治療についても学ぶ。各講義において薬剤に対する知識と薬物療法の基本およびその際の看護師の役割を学び、さらに薬剤の作用、副作用の理解に留まらず、その人の生活にあった安全で、最大薬理作用効果を得るためにはどうしたらよいか薬剤師・医師との多職種連携についても考える。ここでの学びを今後、臨地実習、総合看護薬理学演習へとつないでいく。

授業形式

教科書を用い講義形式で行う。
また講義の中に一部演習問題を取り入れる。

評価方法

■定期試験 定期試験 100%で評価する。追再試験を実施することがある。講評は、合格発表後に個別に対応する。

教科書(ISBN 番号)

「臨床薬理学」井上 智子 / 窪田 哲朗 編集、井上 智子 他 執筆(医学書院)(ISBN: 978-4-260-02770-0)

参考書

「薬理学 第 14 版」吉岡 充弘 他 著(医学書院)(ISBN: 978-4-260-03184-4)

オフィスアワー(授業相談)

小松: 月曜日 午後 1 時~5 時、それ以外の時間でも質問は可能な限り受け付けます。不在にする場合、事前に掲示、講義を通して連絡、或いは授業用メールでも対応します。

濱村: 月曜、金曜の 13:00~17:00 ですが、それ以外の時間でも質問は可能な限り受け付けます。不在の場合はメール(k-hamamura@daiichi-cps.ac.jp)にて対応します。

学生へのメッセージ

病態の理解を進めながら薬物の作用機序をわかりやすく説明するように努めます。

講義コード	1N22500
講義名	臨床医学論 I (成人・高齢者)03
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	60.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類名	専門支持分野
科目分野名	疫病基礎理論科目
対象学科・年次	看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉武 毅人	成人看護学領域 医師経験あり
(非常勤)講師	寺坂 禮治	
(非常勤)講師	都築 克幸	指定なし
(非常勤)講師	矢野 茂敏	指定なし
(非常勤)講師	山浦 健	指定なし

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー: (2)

(内科系疾患)

- ・ 内科学について、また種々の症候と疾患について理解する。
- ・ 循環器疾患: 虚血性心疾患・心不全・不整脈・高血圧などの病態生理・診断治療法を理解する。
- ・ 呼吸器疾患: 肺炎・慢性閉塞性肺疾患・呼吸不全・肺癌などの病態生理・診断治療法を理解する。
- ・ 消化器疾患: 主な食道・胃・腸・肝臓・胆嚢・すい臓疾患の病態生理・診断治療法を理解する。
- ・ 脳・神経疾患: 脳血管疾患・脳腫瘍・神経変性疾患、末梢神経疾患などの病態生理・診断治療法を理解する。
- ・ 内分泌・代謝疾患: 甲状腺・副腎疾患、糖尿病・高脂血症などの病態生理・診断治療法を理解する。
- ・ 腎・泌尿器疾患: 腎不全、腎炎、ネフローゼ症候群、尿路結石などの病態生理・診断治療法を理解する。
- ・ アレルギー・自己免疫・膠原病: 主なアレルギー疾患、自己免疫疾患、膠原病の病態生理・診断治療法を理解する。
- ・ 血液・造血器疾患: 貧血、白血病、出血性疾患などの病態生理・診断治療法を理解する。
- ・ 感染症: 主な感染症の病態生理・診断治療法を理解する。

(外科系疾患)

外科的疾患・高齢者医療の特徴を理解した上での処置(術前・術後他)等を理解する。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	吉武 毅人	内科系疾患1	内科総論と症候学: 内科学について、高齢者医療	講義
第2回	吉武 毅人	内科系疾患2	呼吸器疾患 1: 呼吸器の構造と機能、肺炎、喘息	講義
第3回	吉武 毅人	内科系疾患3	呼吸器疾患 2: 肺炎、慢性閉塞性肺疾患、肺癌	講義
第4回	吉武 毅人	内科系疾患4	循環器疾患 1: 循環器の構造と機能、高血圧、心筋梗塞	講義
第5回	吉武 毅人	内科系疾患5	循環器疾患 2: 狭心症、心不全	講義
第6回	吉武 毅人	内科系疾患6	循環器疾患 3: 不整脈	講義
第7回	寺坂 禮治	外科系疾患1	外科総論、胸部の外科的処置	講義
第8回	山浦 健	外科系疾患2	麻酔について学ぶ、外傷とショック	講義
第9回	吉武 毅人	内科系疾患7	消化器疾患 1: 消化器の構造と機能、上部消化管疾患	講義
第10回	吉武 毅人	内科系疾患8	消化器疾患 2: 下部消化管疾患	講義

第11回	吉武 毅人	内科系疾患9	消化器疾患 3:肝・胆・膵疾患	講義
第12回	寺坂 禮治	外科系疾患3	消化器疾患の外科的処置(消化管)	講義
第13回	寺坂 禮治	外科系疾患4	消化器疾患の外科的処置(肝・胆・膵)	講義
第14回	吉武 毅人	内科系疾患10	内分泌・代謝疾患 1:内分泌の構造と機能、甲状腺疾患	講義
第15回	吉武 毅人	内科系疾患11	内分泌・代謝疾患 2:副腎疾患、糖尿病	講義
第16回	吉武 毅人	内科系疾患12	内分泌・代謝疾患 3:脂質異常症、高尿酸血症	講義
第17回	吉武 毅人	内科系疾患13	血液・造血器疾患:血液の生理と造血、貧血、白血病、出血性疾患	講義
第18回	吉武 毅人	内科系疾患14	腎・泌尿器疾患 1:腎・泌尿器の構造と機能、腎不全	講義
第19回	吉武 毅人	内科系疾患15	腎・泌尿器疾患 2:腎炎、ネフローゼ症候群、尿路結石	講義
第20回	吉武 毅人	内科系疾患16	脳・神経疾患 1:脳・神経の構造と機能、脳血管疾患、てんかん、筋ジストロフィー症、筋萎縮性側索硬化症	講義
第21回	吉武 毅人	内科系疾患17	脳・神経疾患 2:パーキンソン病、アルツハイマー病	講義
第22回	吉武 毅人	内科系疾患18	脳・神経疾患 3:多発性硬化症、重症筋無力症	講義
第23回	矢野 茂敏	外科系疾患5	脳・神経疾患の外科的処置、脳腫瘍、外傷性頭蓋内血腫	講義
第24回	吉武 毅人	内科系疾患19	運動器疾患:運動器の構造と機能、関節リウマチ、廃用症候群	講義
第25回	都築 克幸	外科系疾患6	運動器疾患の外科的処置、骨折、椎間板ヘルニア	講義
第26回	吉武 毅人	内科系疾患20	感染症:感染症と病原微生物、主な感染症	講義
第27回	吉武 毅人	内科系疾患21	アレルギー、自己免疫、膠原病 1:免疫とアレルギー、主なアレルギー疾患	講義
第28回	吉武 毅人	内科系疾患22	アレルギー、自己免疫、膠原病 2:膠原病	講義
第29回	吉武 毅人	内科系疾患23	皮膚疾患:皮膚の構造と機能、アトピー性皮膚炎、褥瘡、熱傷、带状疱疹	講義
第30回	吉武 毅人	内科系疾患24	眼・耳鼻咽喉疾患:感覚器の構造と機能、白内障・緑内障、中耳炎、メニエール病	講義

授業概要

(内科系疾患)

内科学は臨床医学の基本となるものです。病気の種類や患者さんの数も内科的疾患が最も多く、その理解は看護の上でも非常に重要です。

臨床医学論Ⅰ:内科系疾患では、内科系疾患について系統的に学ぶことを目的とします。内科学総論と症候学および臨床的に重要な内科系疾患について教授します。循環器、呼吸器、消化器、脳・神経、内分泌・代謝、腎・泌尿器、アレルギー・自己免疫・膠原病、血液、感染症の代表的疾患について、原因や発生機序、診断および治療について学びます。

(外科系疾患)

麻酔・腫瘍総論・腫瘍各論(外科的対象疾患)

運動器疾患・循環器疾患(外科的対象疾患)

外科的疾患を系統的に学修し代表的疾患の理解、術前術後の管理の理解。

高齢者疾患の特徴についての理解を目標とします。

授業形式

教科書に基づき、パワーポイントを活用して解説を行う。

評価方法

■定期試験 定期試験 100%

教科書(ISBN番号)

《看護学テキスト Nice 病態・治療論》

【1】病態・治療総論(9784524237418)

《看護学テキスト Nice 病態・治療論》

【2】呼吸器疾患(9784524237425)

《看護学テキスト Nice 病態・治療論》

【3】循環器疾患(9784524237432)

《看護学テキスト Nice 病態・治療論》

【4】消化器疾患(9784524237449)

《看護学テキスト Nice 病態・治療論》

【5】内分泌・代謝疾患(9784524237456)

《看護学テキスト Nice 病態・治療論》

- 【6】血液・造血器疾患(9784524237463)
《看護学テキスト Nice 病態・治療論》
- 【7】腎・泌尿器疾患(9784524237470)
《看護学テキスト Nice 病態・治療論》
- 【8】脳・神経疾患(9784524237487)
《看護学テキスト Nice 病態・治療論》
- 【9】運動器疾患(9784524237494)
《看護学テキスト Nice 病態・治療論》
- 【10】感染症／アレルギー／膠原病(9784524237517)
- 【11】皮膚／耳鼻咽喉／眼／歯・口腔疾患(9784524237524)

オフィスアワー(授業相談)

月曜日終日

学生へのメッセージ

講義は教科書に従って進めていきます。事前に IPO に講義資料(講義で使用する教科書も記載)を記載しますので、必ず講義には該当の教科書を持参して下さい。講義中には、教科書にどんどん書き込みをして、自分のテキストにして下さい。また、講義資料に掲載されている国家試験問題を解いて下さい。

備考

教科書の次回の授業範囲を読み、専門用語の意味などを予習しておく。
授業で配布されたプリントを読み、講義内容を理解できるよう復習する。
当該期間に 30 時間以上の予習・復習が必要。

講義コード	1N22600
講義名	臨床医学論Ⅱ(小児・産婦人科・精神)03
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	60.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門支持分野
科目分野名	疫病基礎理論科目
対象学科・年次	看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
(非常勤)講師	◎ 藤田 恭之	指定なし
(非常勤)講師	矢幡 秀昭	指定なし
(非常勤)講師	加藤 聖子	指定なし
(非常勤)講師	判田 正典	指定なし
(非常勤)講師	大賀 正一	指定なし
(非常勤)講師	中山 秀樹	指定なし
(非常勤)講師	本庄 哲	指定なし
(非常勤)講師	寺本 成一	指定なし

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー: (2)

1. 女性の性周期とホルモンの関係から受胎のメカニズムを説明することができる。
2. 妊娠・分娩期に起こる異常と胎児に及ぼす影響と産褥期・新生児期に見られる主な疾患・症状を説明できる。
3. 新生児に発症する疾患を胎外生活への適応と関連付けて説明できる。
4. 女性のライフサイクル各期における生殖器疾患の診断と治療を説明できる。
5. 女性特有の疾患、生殖器腫瘍・泌尿器疾患について診断と治療を説明できる。
6. 小児医療の変遷および小児医療の特徴を説明できる。
7. 小児の各種疾患を発達の特徴と関連させて説明できる。
8. 慢性的な経過をたどる小児疾患の特徴と治療を説明できる。
9. 欧米と日本における精神医療の変遷について共通点と相違点を説明することができる。
10. 主な精神疾患の診断と分類について説明することができる。
11. 精神科における検査と治療について説明することができる。
12. 主な精神疾患の成因と症状の知識をもとに生活障害について考えることができる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	藤田 恭之	産科臨床医学1	妊娠期の異常(妊娠初期の異常、妊娠悪阻、流産、異所性妊娠、妊娠高血圧症候群)	講義
第2回	藤田 恭之	産科臨床医学2	妊娠期の異常(常位胎盤早期剥離、前置胎盤、癒着胎盤、羊水異常、多胎妊娠、胎児発育不全、血液型不適合妊娠、糖尿病合併妊娠、早産、過期産)	講義
第3回	藤田 恭之	産科臨床医学3	合併妊娠および母子感染症	講義
第4回	藤田 恭之	産科臨床医学4	分娩期の異常(胎位の異常、産科出血・産科ショック・DIC、分娩損傷)	講義
第5回	藤田 恭之	産科臨床医学5	母体期と環境(環境汚染、薬剤、喫煙、アルコール)	講義

第6回	藤田 恭之	産科臨床医学6	産褥期の異常、新生児の異常	講義
第7回	矢幡 秀昭	婦人科臨床医学1	症状とその病態生理(ショック、出血、帯下、疼痛、外陰部搔痒感、排尿障害)	講義
第8回	加藤 聖子	婦人科臨床医学2	・女性生殖器における診察・検査と治療・処置 ・性分化疾患の基礎的な知識と主な疾病の診断と治療 ・機能的疾患の基礎的な知識と主な疾病の診断と治療	講義
第9回	矢幡 秀昭	婦人科臨床医学3	女性生殖器に発生する腫瘍の診断と治療(類腫瘍病変、前癌病変、腫瘍)、手術の基礎と術式	講義
第10回	寺本 成一	婦人科臨床医学4	乳腺疾患の診断と治療	講義
第11回	大賀 正一 中山 秀樹	小児臨床医学総論 1	小児期の成長と発達の異常および小児医療の特徴 ・成長、発達に伴う疾患の概観 ・臓器別、形態機能別にみた疾患の概観 ・先天異常、染色体異常および脳神経系疾患の基礎的な知識と主な疾病の診断と治療	講義
第12回	本荘 哲	小児臨床医学総論 2	小児感染症の基礎的な知識と主な疾病の診断と治療	講義
第13回	本荘 哲	小児臨床医学総論 3	呼吸器疾患の基礎的な知識と主な疾病の診断と治療(気管支喘息・RSウイルス)	講義
第14回	本荘 哲	小児臨床医学総論 4	消化器疾患の基礎的な知識と主な疾病の診断と治療(肥厚性幽門狭窄症・腸重責・鎖肛)	講義
第15回	本荘 哲	小児臨床医学総論 5	循環器疾患の基礎的な知識と主な疾病の診断と治療(ファロー四徴症)	講義
第16回	中山 秀樹	小児臨床医学総論 6	腎疾患の基礎的な知識と主な疾病の診断と治療(ネフローゼ・糸球体腎炎)	講義
第17回	中山 秀樹	小児臨床医学総論 7	代謝・内分泌疾患の基礎的な知識と主な疾病の診断と治療(1型糖尿病)	講義
第18回	中山 秀樹	小児臨床医学総論 8	免疫・アレルギー疾患の基礎的な知識と主な疾病の診断と治療(川崎病他)	講義
第19回	中山 秀樹	小児臨床医学総論 9	血液・造血器疾患の基礎的な知識と主な疾病の診断と治療(白血病)	講義
第20回	本荘 哲	小児臨床医学総論 10	整形外科疾患および耳鼻咽喉科疾患の基礎的な知識と主な疾病(骨折・口唇口蓋裂)	講義
第21回	判田 正典	精神臨床医学総論 1	欧米と日本の精神医療の歴史	講義
第22回	判田 正典	精神臨床医学総論 2	日本の精神保健福祉に関する主な法制度	講義
第23回	判田 正典	精神臨床医学総論 3	精神科学と脳科学との関連、精神障害の主な診断と疾病分類	講義
第24回	判田 正典	精神臨床医学各論 1	精神障害の精神症状論と状態像	講義
第25回	判田 正典	精神臨床医学各論 2	薬物療法における抗精神病薬の主な作用と有害反応	講義
第26回	判田 正典	精神臨床医学各論 3	統合失調症の診断と治療	講義
第27回	判田 正典	精神臨床医学各論 4	気分障害(感情障害)の診断と治療	講義
第28回	判田 正典	精神臨床医学各論 5	神経性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害の診断と治療	講義
第29回	判田 正典	精神臨床医学各論 6	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群の診断と治療、パーソナリティ障害・器質性精神障害・知的障害・発達障害の診断と治療	講義
第30回	判田 正典	精神臨床医学各論 7	主な精神疾患の成因と症状	講義

授業概要

「臨床医学論Ⅰ」と連動し、看護の専門科目のベースとなる医学知識を身につける科目です。とくに、専門基礎分野の母性看護学、小児看護学、精神看護学と密接なつながりをもつため、産科、婦人科、小児科、精神科といった基礎医学を理解することが必要です。産科領域では、女性生殖器の構造と性機能について、次世代がどのように生まれ成長発達していくのか関連づけて学び、妊娠の成立と生理的变化を逸脱した場合にどのような疾患や合併症が起こるのかを学びます。婦人科領域では、女性生殖器の構造と機能、性機能を踏まえたうえで、女性生殖器に発生する主な疾患の診断と治療について学びます。小児科領域では、小児の疾病の動向、治療上のトピックスおよび小児に特徴的な疾病の症状と治療を学びます。精神科領域では、治療の基本的概念を歴史的に捉えたうえで、代表的な精神疾患の診断と治療について学び、生物・心理・社会的側面からアプローチを行う意味について学修します。

授業形式

教科書に基づき、パワーポイントを活用して解説を行う。

評価方法

■定期試験 定期試験 100%(産科領域 30%、婦人科領域 10%、小児科領域 30%、精神科領域 30%)

教科書 (ISBN 番号)

- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器 (著)末岡浩 (医学書院)(978-4-2600-3567-5)
- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 (著)森恵美ほか (医学書院)(978-4-2600-4223-9)
- ・ナーシング・グラフィカ 小児看護学[3] 小児の疾患と看護 (メディカ出版)(978-4-8404-5796-5)
- ・看護学テキスト NICE 病態・治療論[12]精神疾患(978-4-5242-3753-1)

参考書

- ・看護学テキスト NICE 疾病と治療Ⅲ 腎・泌尿器系／脳・神経系／精神／女性生殖器系／小児 (編集)松田暉ほか (南江堂)
- ・みるよむわかる 精神医学入門 (原著)Neel Burton (医学書院)

講義コード	1N23200
講義名	地域保健 03
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門支持分野
科目分野名	地域基盤教育科目
対象学科・年次	看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西地 令子	公衆衛生看護学領域 看護師・保健師免許保有
教授	西田 和子	地域看護学領域 看護師・保健師・助産師免許保有
准教授	園田 和子	公衆衛生看護学領域 看護師・保健師免許保有
講師	前原 敬子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有

求められる基本的な資質

地域保健では、地域保健法に基づき地域住民の健康の保持増進と、必要な資源を活用しながら人々の生活を支援する方法を考えていく力を養う。そのため、地域保健法とライフステージに応じた関係法規や、学校保健・産業保健に関する主な法律を理解する意欲が必要である。よって、事前学習や復習をしようとする姿勢をもっている必要がある。また、講義やグループワークにおいては積極的に参加し、リーダーシップ・メンバーシップに努めようとする姿勢も求められる。

一般目標(GIO)

1. 地域保健法の理念と指針に基づいた機関・組織を理解する。
2. 母子保健・成人保健・精神保健・学校保健・産業保健の目的、意義を理解する。
3. 母子保健・成人保健・精神保健・学校保健・産業保健の仕組みと法制度を理解する。
4. 母子保健・成人保健・精神保健・学校保健・産業保健に関わる対象者の健康問題から保健管理、保健教育について理解する。
5. 災害時における看護職の機能と役割について理解する。
6. 地域保健の今後の課題を考察する。

到達目標(SBO)

1. 地域保健における保健師の活動について理解できる。
2. 女性の生涯を通じた健康づくりについて理解できる。
3. 妊婦及び産褥期の保健指導について理解できる。
4. 乳幼児の発達や乳幼児健康診査のポイントについて理解できる。
5. 児童・生徒に対する保健管理や保健管理について理解できる。
6. 児童・生徒が抱える健康問題と課題について理解できる。
7. 成人期における健康問題と保健指導について理解できる。
8. 地域で生活する精神障がい者に対する主な精神保健福祉サービスの概要と支援方法について理解できる。
9. 産業保健の関係法規と対象について理解できる。
10. 職業性疾病などの健康障害とその予防対策について理解できる。
11. 災害時のフェーズに応じた保健活動が理解できる。
12. 災害時に起こりやすい健康課題と保健指導のポイントについて理解できる。

※対応するディプロマポリシー：(1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー：(2) (3)

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	西地 令子	講義ガイダンス 地域保健	講義の進め方、履修上の注意など 地域保健活動について(対象者・範囲・特徴)	講義
第2回	前原 敬子	母子保健	女性のライフサイクルと生涯を通じた女性の健康づくり	講義
第3回	前原 敬子	母子保健	妊娠期及び産褥期における保健活動とその実際	講義
第4回	西地 令子	母子保健	乳幼児の発達と保健指導 乳幼児健康診査の実際とポイント	講義
第5回	西地 令子	学校保健	学校保健の目的、定義、学校安全保健法等制度 健康診断、健康相談、感染症予防、学校環境衛生等	講義
第6回	西地 令子	学校保健	児童・生徒の健康の現状と課題(発育、健康状態、体力の変化)、 学校給食等家庭や地域との連携、レポート①	講義
第7回	園田 和子	成人保健	生活習慣病の予防と保健指導 特定健診・特定保健指導	講義
第8回	園田 和子	成人保健	がん検診と健康教育	講義
第9回	西地 令子	精神保健	地域における主な精神保健福祉サービスの概要と保健活動	講義
第10回	西田 和子	産業保健	産業保健の目的と定義、労働衛生(保健)の変遷	講義
第11回	西田 和子	産業保健	労働衛生の3管理と職業性疾病の予防対策	講義
第12回	西田 和子	産業保健	職場におけるメンタルヘルス対策、トータルヘルスプラン(THP)、レ ポート②	講義
第13回	園田 和子	災害看護	災害保健活動:災害対策基本法、災害救助法、フェーズに応じた保 健活動(災害時の医療体制、災害拠点病院、MATの役割等)対象 者に合わせた災害保健活動(災害時要援護者)	講義
第14回	園田 和子	災害看護	災害時に起こりやすい疾患、看護職の役割 災害時の実際例(避難所の設営時のポイントをグループで考えて みよう)、レポート③	講義
第15回	西地 令子 園田 和子	総括:地域保健のま とめ	地域保健の振り返りと理解度確認	講義

授業概要

地域保健法に基づく、地域保健としての地域保健活動内容を学ぶ。特に、母子保健・成人保健・精神保健・学校保健・産業保健、災害看護について学び、地域の住民がその生活基盤の中で、自らの健康の保持増進を図ることができるように、地域社会をアセスメントし、必要な資源や技術を組織的に提供し、人々の生活を支援していく、一連の活動過程を学ぶ。

授業形式

講義

評価方法

■定期試験 ■レポート 定期試験 70%、レポート 30%
記述試験 70%、レポート 30%(レポート①10%、レポート②10%、レポート③10%)

教科書(ISBN 番号)

公衆衛生看護学 第2版(9784805854624)
国民衛生の動向 2021/2022

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

学生へのメッセージ

・この科目は2年前期で学ぶ『公衆衛生看護学概論』を基盤としており、地域で生活している人々の健康の保持増進のためにどのような支援を行っているのかを理解が必要です。また、健康障害を抱えながら地域で生活している人々にどのような支援がなされているのかの実際を学びます。以上により、地域保健の基本的な知識や考え方の定着を図ります。
・地域保健では保健活動を行う際に、どの法律に則っているのか(根拠法)を考えることが重要です。そのため、予習・復習を行い、保健活動と法律をセットで学んでいきましょう。

備考

原則、対面式授業です。状況によって、リモート授業になった場合は、zoom形式を採用します。

講義コード	1N23300
講義名	家族社会学 03
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
科目分類名	専門支持分野
科目分野名	地域基盤教育科目
対象学科・年次	看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
(非常勤)講師	◎ 永吉 守	指定なし

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー: (3)

1. 社会的なもの見方に親しみ、その意義を理解できる。
2. 日常への批判的な視点の意義を理解できる。
3. 家族の基本的な機能・役割、家族社会学の基礎的な概念や理論を説明できる。
4. 社会変動が家族に及ぼす影響や個人の生活様式と家族という集団の関連、家族関係と職業・労働の問題について説明できる。
5. 自分の家族を通して、ケアと家族など今の家族が抱える課題について考えることができる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	永吉 守	イントロダクション	家族社会学を学ぶ意義、「社会」について	講義
第2回	永吉 守	社会と文化の概念	「社会」について、「文化」について	講義
第3回	永吉 守	家族社会学、社会学	家族社会学の守備範囲、社会学や文化人類学との関連	講義
第4回	永吉 守	婚姻と出自 1	家族・親族を婚姻(結婚)と出自から考える	講義
第5回	永吉 守	婚姻と出自 2	家族・親族を婚姻(結婚)と出自から考える	講義
第6回	永吉 守	婚姻と出自 3	家族・親族を婚姻(結婚)と出自から考える	講義
第7回	永吉 守	ジェンダーと家族 1	ジェンダー、近代家族、「イエ」概念	講義
第8回	永吉 守	ジェンダーと家族 2	ジェンダー、近代家族、「イエ」概念	講義
第9回	永吉 守	死と社会・家族 1	人の死の社会的意味と家族・親族	講義
第10回	永吉 守	死と社会・家族 2	葬送儀礼からみた死・社会・家族の考察	講義
第11回	永吉 守	医療と家族・社会 1	医療人類学の視点ー「病氣」をめぐる概念よりー	講義
第12回	永吉 守	医療と家族・社会 2	医療人類学の視点ー看護・介護の担い手ー	講義
第13回	永吉 守	グローバリゼーション	グローバル化する日常生活	講義
第14回	永吉 守	親密圏と公共圏	新しい親密圏と公共圏	講義
第15回	永吉 守	多文化共生、まとめ	多文化共生社会	講義

授業概要

私たちの生活の基盤は家族である。家族の基本的な機能・役割、家族社会学の基礎的な概念や理論をふまえ、現代社会における家族の諸相について学ぶ。具体的には、社会変動が家族に及ぼす影響や個人の生活様式と家族という集団の関連、家族関係と職業・労働の問題、さらには、近年大きな社会的課題となっているケアと家族についてなど、家族にまつわる様々なトピックを扱う。これらの学修を通して、社会的に家族をみること、すなわち家族を相対化してみることができるようになることを目指す。

授業は講義形式で行う。家族を社会的に理解するための理論や方法を修得するために、序盤は社会学の基本的な考え方について、映像を用いながら授業を行う。その後も適宜映像を交えながら、授業を進める予定である。

授業形式

講義

評価方法

レポート 100%

教科書 (ISBN 番号)

なし

参考書

- ・『よくわかる 社会学』(第2版)(編)宇都宮京子 (ミネルヴァ書房)
- ・『家族論・家族関係論』(第2版、系統看護学講座 基礎分野)(編)岡堂哲雄 (医学書院)
- ・『文化人類学』(第3版、系統看護学講座 基礎分野)(編)波平恵美子 (医学書院)

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

備考

配布資料を一読し、不明な専門用語が出てきた場合は、その意味を調べること。
授業中に不明な専門用語が出てきた場合は、質問をするなどして、その意味を調べること。
当該期間に 30 時間以上の予習・復習が必要。

講義コード	1N23400	
講義名	臨床心理学 03	
(副題)		
開講責任部署		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義・演習	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	専門支持分野	
科目分野名	地域基盤教育科目	
対象学科・年次	看護学科・2年	
必修/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
(非常勤)講師	◎ 三原 健吾	指定なし

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー: (3)

- 1) 自分のこころを理解しようとし、そのことで他者の心の理解を深め、実践できる。
- 2) 代表的な臨床心理学の理論を説明することができる。
- 3) 面接法や検査法などの基本的な臨床心理アセスメントの方法を説明することができる。
- 4) 基本的な心理援助方法について説明することができる。
- 5) 基本的な傾聴のスキルを実践できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	三原 健吾	臨床心理学とは	心理的ふれあい(ラポールの形成)	講義
第2回	三原 健吾	心理アセスメント①	心理アセスメントの基礎	講義 演習
第3回	三原 健吾	心理アセスメント②	質問紙法	講義 演習
第4回	三原 健吾	心理アセスメント③	投影法、作業法	講義 演習
第5回	三原 健吾	心理アセスメント④	知能検査、テストバッテリー	講義
第6回	三原 健吾	精神分析	基礎理論と諸技法	講義
第7回	三原 健吾	行動療法	学習理論に基づく諸技法	講義
第8回	三原 健吾	認知行動療法	認知・行動・情動の基本モデルと諸技法	講義
第9回	三原 健吾	クライアント中心療法	自己理論と人格変化の必要十分条件	講義
第10回	三原 健吾	傾聴技法	基本的な態度とかかわり行動	講義、演習
第11回	三原 健吾	日本独自の心理療法	森田療法と内観療法	講義
第12回	三原 健吾	ライフサイクルと心の問題①	ライフサイクルの課題と問題	講義
第13回	三原 健吾	ライフサイクルと心の問題②	各発達段階の特徴(乳幼児期から老年期まで)	講義
第14回	三原 健吾	メンタルヘルス	医療従事者のこころのケア	講義
第15回	三原 健吾	まとめ	総復習	講義

授業概要

人のこころと行動について理解する知識や方法を説明できる。
そのために以下について講義形式の授業を中心に、適宜グループ学習を行う。
(1)臨床心理学の定義、歴史、研究法・方法論
(2)臨床心理アセスメントの基礎
(3)臨床心理学における主要なアプローチの理論と実際

授業形式

講義

評価方法

■定期試験 ■レポート
定期試験 80%、課題レポート 20%

教科書 (ISBN 番号)

面白いほどよくわかる！臨床心理学(監修)下山晴彦(西東社)(9784791618873)

参考書

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

学生へのメッセージ

他者の心を理解するためには、まず自分自身の特徴や個性を臨床心理学の視点から客観的に理解する必要がある。そのため、講義で学んだことを、わが身に置き換えて考えて、言語化していく作業を各自行っていただきたい。

講義コード	1N23500
講義名	疫学(保健師課程必修)03
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類名	専門支持分野
科目分野名	地域基盤教育科目
対象学科・年次	看護学科・2年
必修/選択	選択(保健師課程必修)

担当教員

職種	氏名	所属
(非常勤)講師	◎ 船越 駿介	指定なし
(非常勤)講師	二宮 利治	指定なし

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー: (3) (6)

- 疫学的な考え方について説明できる。
- 集団の健康事象について指標を用いて説明できる。
- 疫学的調査研究について、種類や方法、長所・短所について説明できる。
- 疫学的調査研究データについて、その結果を解釈できる。
- スクリーニング検査について説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	船越 駿介	疫学の概念	疫学とは、疫学の歴史、基本用語	講義
第2回	船越 駿介	疾病の原因、疫学的な因果関係の考え方	曝露と疾病の関係、因果関係の判定	講義
第3回	船越 駿介	集団の健康事象の指標1	頻度の表し方(率と比、罹患率と有病率)	講義
第4回	船越 駿介	集団の健康事象の指標2	頻度の比較(相対危険、寄与危険、オッズ比)	講義
第5回	船越 駿介	疫学的研究方法1	記述疫学と分析疫学、横断研究と生態学的研究	講義
第6回	船越 駿介	疫学的研究方法2	症例対照研究、コホート研究	講義
第7回	船越 駿介	疫学的研究方法3	介入研究、疫学研究と倫理	講義
第8回	二宮 利治	生活習慣病の疫学1	演習	講義
第9回	二宮 利治	生活習慣病の疫学2	演習	講義
第10回	船越 駿介	疫学研究の質1	誤差	講義
第11回	船越 駿介	疫学研究の質2	バイアス、交絡	講義
第12回	船越 駿介	疫学と統計学	全数調査と標本調査、推定と検定	講義
第13回	船越 駿介	スクリーニング	妥当性と信頼性、感度と特異度	講義
第14回	船越 駿介	感染症の疫学1	演習	講義
第15回	船越 駿介	感染症の疫学2	演習	講義

授業概要

疫学的な考え方や各種疫学指標、疫学研究の種類や方法について講義します。

授業のねらい

1. 集団としての人の健康・疾病に関する疫学や各種統計指標について理解することができる。
2. 疫学的な調査方法、データの解釈の仕方について理解することができる。

授業形式

指定した教科書に沿って講義形式にて授業を行います。授業内容の理解度の確認のために、前半後半に分け問題演習を行います。

評価方法

■定期試験 定期試験 100%

教科書 (ISBN 番号)

楽しく学べる看護学生のための疫学・保険統計改訂 3 版 (9784525053437)

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

講義コード	1N31500
講義名	看護援助技術Ⅳ(フィジカルアセスメント 03)
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	講義・演習
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類名	基礎看護学分野
科目分野名	基礎看護学
対象学科・年次	看護学科・2年次
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 権藤 多栄	基礎看護学領域 看護師免許保有
教授	村田 節子	地域医療薬学センター
教授	長家 智子	基礎看護学領域 看護師免許保有
教授	吉武 毅人	成人看護学領域 医師経験あり
准教授	中村 真理子	成人看護学領域 看護師免許保有
講師	姜 旻廷	基礎看護学領域 看護師免許保有
講師	山口 今日子	成人看護学領域 看護師免許保有
講師	丸山 智子	成人看護学領域 看護師免許保有
助教	溝口 晶子	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	竹井 千里	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	井上 由美子	成人看護学領域 看護師免許保有

到達目標(SBO)

- ※対応するディプロマポリシー:(1)(2)
 ※対応するカリキュラムポリシー:(2)
- ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関係性を説明することができる。
 - フィジカルアセスメントに必要な技術を説明することができる。
 - フィジカルアセスメントの方法を人体の構造と機能に基づいて説明できる。
 - 問診の方法と留意点を説明できる。
 - 健康歴聴取の目的と方法を説明できる。
 - 系統別のフィジカルイグザミネーションを実施することができる。
 - フィジカルイグザミネーションで得た情報をアセスメントすることができる。
 - フィジカルイグザミネーションで得た情報を整理・記録することができる。
 - 事例から実施するフィジカルアセスメントを説明できる。
 - 一次救命処置について、理解し説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	権藤多栄	講義ガイダンス ヘルスアセスメント	講義の進め方、履修上の注意など 1.ヘルスアセスメントの概念 2.フィジカルアセスメントに必要な技術 3.健康歴とセルフケア能力のアセスメント 問診、健康歴聴取、セルフケア能力のアセスメント	講義
第2回	権藤多栄 長家智子 吉武毅人	フィジカルアセスメントの基本 技術	全身のみかた 1)視診:視診の観点、胸郭・口腔・指・爪 2)触診:原則と方法	講義 演習

	村田節子 中村眞理子 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 竹井千里 井上由美子		3) 打診: 打診の原理、適応箇所、打診時のコツ 4) 聴診: 方法	
第 3 回	竹井千里 長家智子 吉武毅人 村田節子 中村眞理子 権藤多栄 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 井上由美子	系統別フィジカルアセスメント	呼吸器系のみかた 1) 主な呼吸器症状とそのとらえ方 2) 重要な徴候とそのとらえ方 3) 呼吸器の所見のとり方	講義 演習
第 4 回	竹井千里 長家智子 吉武毅人 村田節子 中村眞理子 権藤多栄 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 井上由美子	総合演習	事例によるフィジカルアセスメント 呼吸器系	講義 演習
第 5 回	姜 旻廷 長家智子 吉武毅人 村田節子 中村眞理子 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 竹井千里 井上由美子	系統別フィジカルアセスメント	循環器系のみかた 1) 病歴のとり方 2) 主な症状と徴候 3) 視診 4) 触診・打診 5) 聴診	講義 演習
第 6 回	姜 旻廷 長家智子 吉武毅人 村田節子 中村眞理子 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 竹井千里 井上由美子	総合演習	事例によるフィジカルアセスメント 循環器系	講義 演習
第 7 回	権藤多栄 長家智子 吉武毅人 村田節子 中村眞理子 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 溝口晶子	系統別フィジカルアセスメント	腹部のみかた 1) 腹部症状のとらえかた 2) 腹部の病歴のとりかた 3) 主な消化器症状とその意味 自覚症状のとらえかた 4) 他覚症状のとらえかた 視診・触診・打診・聴診	講義 演習

	竹井千里 井上由美子			
第 8 回	権藤多栄 長家智子 吉武毅人 村田節子 中村眞理子 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 竹井千里 井上由美子	総合演習	事例によるフィジカルアセスメント 消化器系	講義 演習
第 9 回	溝口晶子 長家智子 吉武毅人 村田節子 中村眞理子 権藤多栄 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 竹井千里 井上由美子	系統別フィジカルアセスメント	神経系のみかた 1) 神経系のみかた 2) 神経系の系統的アセスメント 意識状態・高次脳機能・脳神経・眼・耳・頸部・四肢の運動機能など	講義 演習
第 10 回	溝口晶子 長家智子 吉武毅人 村田節子 中村眞理子 権藤多栄 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 竹井千里 井上由美子	総合演習	事例によるフィジカルアセスメント 神経系	講義 演習
第 11 回	権藤多栄 長家智子 吉武毅人 村田節子 中村眞理子 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 竹井千里 井上由美子	一次救命処置	一次救命処置(BLS) JRC蘇生ガイドライン 心肺蘇生	講義 演習
第 12 回	権藤多栄 長家智子 吉武毅人 村田節子 中村眞理子 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 竹井千里 井上由美子	一次救命処置	救急救命処置 C: 循環～胸骨圧迫 A: 気道～気道確保 B: 呼吸～人工呼吸 D: 除細動 医療用BLSアルゴリズム	講義 演習
第 13 回	権藤多栄 長家智子 吉武毅人	一次救命処置	救急救命処置 C: 循環～胸骨圧迫 A: 気道～気道確保	講義 演習

	村田節子 中村真理子 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 竹井千里 井上由美子		B:呼吸～人工呼吸 D:除細動 医療用BLSアルゴリズム	
第 14 回	権藤多栄 長家智子 吉武毅人 村田節子 中村真理子 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 竹井千里 井上由美子	一次救命処置	救急救命処置 C:循環～胸骨圧迫 A:気道～気道確保 B:呼吸～人工呼吸 D:除細動 医療用BLSアルゴリズム	講義 演習
第 15 回	権藤 多栄	看護援助技術Ⅳ(フィジカルアセスメント)のまとめ	看護援助技術Ⅳ(フィジカルアセスメント)の振り返りと理解度確認	講義

授業概要

フィジカルアセスメントは、問診・視診・触診・打診・聴診の手法を取り入れ、患者の状態を具体的に把握し、さらに、心理的・社会的アセスメントを加えることで、対象者を全人的・多角的にとらえることができるようになる。
看護援助技術Ⅳでは、問診などから得られる主観的情報、フィジカルイグザミネーション(視診・触診・打診・聴診)から得られる客観的情報を総合してアセスメントを行う技法を学ぶ。

授業形式

講義、演習

評価方法

■定期試験 ■レポート ■その他(演習中の取り組み)

定期試験 40% レポート 30% 演習中の取り組み 30%

教科書 (ISBN 番号)

医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[2] 「基礎看護技術Ⅰ」第18版 ISBN978-4-260-04211-6、

医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[3] 「基礎看護技術Ⅱ」第18版 ISBN978-4-260-04212-3

参考書

その都度お知らせします。

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

学生へのメッセージ

フィジカルアセスメントの知識を活用し、患者さんの身体の状態を総合的にアセスメントする技法について学びます。

講義コード	1N31600
講義名	看護援助技術V(看護過程)03
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	講義・演習
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類名	基礎看護学分野
科目分野名	基礎看護学
対象学科・年次	看護学科・2年次
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 長家 智子	基礎看護学領域 看護師免許保有
教授	村田 節子	地域医療薬学センター
准教授	中村 眞理子	成人看護学領域 看護師免許保有
准教授	園田 和子	公衆衛生看護学領域 看護師・保健師免許保有
講師	権藤 多栄	基礎看護学領域 看護師免許保有
講師	姜 旻廷	基礎看護学領域 看護師免許保有
講師	山口 今日子	成人看護学領域 看護師免許保有
講師	丸山 智子	成人看護学領域 看護師免許保有
講師	山本 弘恵	高齢者看護学領域 看護師免許保有
講師	小山 記代子	小児看護学領域 看護師免許保有
講師	前原 敬子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有
講師	川口 弥恵子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有
講師	宮崎 初	精神看護学領域 看護師・保健師免許保有
助教	溝口 晶子	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	竹井 千里	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	井上 由美子	成人看護学領域 看護師免許保有
助教	野田 優子	小児看護学領域 看護師免許保有
助教	日高 朱里	母性・助産学領域 看護師・保健師・助産師免許保有
助教	栗原 はるか	精神看護学領域 看護師・保健師免許保有
助教	小川 有希子	地域看護学領域 看護師・保健師免許保有

一般目標(GIO)

- 1.対象の健康問題に対する看護上の問題を判断し、解決するための基礎的能力を身に付ける。
- 2.問題解決的な思考を専門技術として活用し、系統立てた物事の考え方を身に付ける。
- 3.対象者の健康問題を特定し、個別的な計画を立案するために、看護過程を活用できる。
- 4.記録報告の重要性を理解し、適切な記録・報告ができる。

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー:(1)(2)

※対応するカリキュラムポリシー:(2)

1. 看護における看護過程の意義・目的について説明できる。
2. 看護過程の構成要素とその関係性について説明できる。
3. 看護過程を展開するために必要なクリティカル・シンキングについて説明できる。
4. アセスメントの枠組みとは何かを説明できる。

5. アセスメントにおける情報収集・整理、解釈ができる。(ペーパーペイシエント)
6. アセスメントにおける分析・統合ができ、看護問題を明確化できる。(ペーパーペイシエント)
7. 情報の関連性を見出し、全体像を図式化できる。
8. 看護問題について優先順位を決定する根拠を説明し、優先順位を決定できる。
9. 看護問題について成果・指標および介入計画を立案し記述できる。
10. 看護計画の実施と評価について説明できる。
11. 看護過程の評価とは何か説明できる。
12. 看護サマリーについて説明できる。
13. 看護記録の構成と内容および法的位置づけを説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	長家智子	講義ガイダンス 看護場面のクリティカル・シンキング 看護過程の概要	講義の進め方、履修上の注意など 1. 看護場面のクリティカル・シンキングの概要、看護に応用した場合のクリティカル・シンキングの定義 2. 看護過程とは ①看護過程の意義と利点 ②看護理論との関連 ③看護過程の5段階 ④5つの構成要素の関係性	講義
第2回	長家智子	看護過程の各段階①	1. スクリーニングアセスメント, フォーカスアセスメント 2. 情報収集(情報源, 面接・観察・測定, 主観的・客観的情報)、手がかり(CUE)、情報の仕分け 3. グループワークの説明(事例の紹介, グループワーク手順, 記録用紙)	講義
第3回	長家智子	看護過程の各段階②	1. アセスメント(情報の収集と分析) 2. 不足情報の明確化、情報の妥当化、情報の分析(判断・解釈・推論)	講義
第4回	長家智子 村田節子 中村真理子 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎 初 溝口晶子 竹井千里 井上由美子 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子	看護過程の展開①	1. アセスメント(情報の収集と分析) ペーパーペイシエントのアセスメントを行う 個人ワークからグループワーク	グループワーク
第5回	長家智子	看護過程の各段階③	看護診断 看護診断の定義・歴史, NANDA-I 診断名 看護診断の種類, 看護診断の定義, 看護過程の第2段階としての看護診断 ・情報の統合、関連図、照合	講義
第6回	長家智子 村田節子 中村真理子 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷	看護過程の展開②	アセスメント ペーパーペイシエントのアセスメントを行う 個人ワークからグループワーク	グループワーク

	山口今日子 丸山智子 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎 初 溝口晶子 竹井千里 井上由美子 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子			
第7回	長家智子	看護過程の各段階④	1. 計画 優先順位の決定 成果・指標の決定 介入計画(観察計画、ケア、計画、教育計画) 2. 実施	講義
第8回	長家智子 村田節子 中村真理子 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎 初 溝口晶子 竹井千里 井上由美子 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子	看護過程の展開③	1. アセスメント(関連図・全体像の作成)、看護診断 ペーパーペイシエントのアセスメント・看護診断を行う 個人ワークからグループワーク	グループワーク
第9回	長家智子	看護過程の各段階⑤	1. 看護記録とは (ア)法的位置づけ ②規定 ③目的と機能 2. 記載・管理における留意点 3. 看護記録の構成 (ア)基礎情報 ②看護計画 ③経過記録 4. ④看護サマリーSOAP 看護の経過記録をSOAPで書く 5. 評価	講義
第10回	長家智子 村田節子 中村真理子 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎 初 溝口晶子	看護過程の展開④	1. 計画(問題リストの作成、看護計画の立案) ペーパーペイシエントの計画立案を行う 個人ワークからグループワーク	グループワーク

	竹井千里 井上由美子 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子			
第 11 回	長家智子 村田節子 中村眞理子 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎 初 溝口晶子 竹井千里 井上由美子 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子	看護過程の展開⑤	1. 計画(問題リストの作成、看護計画の立案) ペーパーペイシエントの計画立案を行う 個人ワークからグループワーク	グループワーク
第 12 回	長家智子 村田節子 中村眞理子 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎 初 溝口晶子 竹井千里 井上由美子 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子	看護過程の展開⑥	グループワークの発表手順についての説明 グループワークの発表の準備 ペーパーペイシエントの看護過程の展開	講義 グループワーク
第 13 回	長家智子 村田節子 中村眞理子 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎 初 溝口晶子 竹井千里 井上由美子	看護過程の展開⑦	グループワークの発表、討議、コメント ペーパーペイシエントの看護過程の展開	グループワーク 発表

	野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子			
第 14 回	長家智子 村田節子 中村真理子 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山口今日子 丸山智子 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎 初 溝口晶子 竹井千里 井上由美子 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子	看護過程の展開⑧	グループワークの発表、討議、コメント ペーパーペイシエントの看護過程の展開	グループワーク 発表
第 15 回	長家智子	看護過程の展開 看護援助技術 V (看護過程)のまとめ	グループワークについての振り返り まとめ 看護援助技術 V (看護過程)の振り返りと理解度確認	講義

授業概要

看護援助技術 V では、看護過程について学ぶ。看護過程とは、患者にとって必要な看護援助を行うために今起きている患者の様々な現象を整理し、問題解決過程の技法に基づき科学的に分析する思考過程である。

看護学的視点で情報収集・整理、解釈、分析・統合、看護問題の抽出というアセスメントプロセスと看護問題に対し、看護計画の立案、実施、評価するための方法を系統的に学ぶ。また、看護過程を展開する際に必要なクリティカル・シンキングの能力を身につける。

これらの学修には、ペーパーペイシエントの事例で看護過程の展開を行う。個人ワークとグループワークでの討議を行い看護援助について様々な考え方を学びながら思考を記録用紙に整理する。

看護過程の展開について基礎的能力を養うことを目指していく。

授業形式

講義、グループワーク

評価方法

■定期試験 ■レポート ■その他(グループワークの取り組み・成果)

定期試験 30%、レポート・グループワークの取り組み・成果 70%

教科書 (ISBN 番号)

基本から学ぶ看護過程と看護診断 第7版(9784260016896)

NANDA-I 看護診断 定義と分類 2018-2020 原書第 11 版(9784260034432)

系統看護学講座 基礎看護学 I 医学書院

参考書

その都度お知らせします。

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

学生へのメッセージ

- ・隔週で 2 コマずつ授業を行う
- ・講義の後、個人ワーク→グループワークで進めていく
- ・グループワークを行うためには、個人ワークが重要となるため、指示に従ってレポートを提出する
- ・疾患についての細かな知識、検査値の読み方などが基盤となるため、指示された学習を確実に行うこと、疑問等があったときには必ず解

決していくことが重要である

- ・グループワークには、指導教員を配置する
- ・看護過程は、臨地実習で各人がひとりで展開することを求められる
- ・実習で困らないよう個人ワークを確実にやっていく必要がある

講義コード	2N31800
講義名	基礎看護学実習Ⅱ03
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	基礎看護学分野
科目分野名	基礎看護学
対象学科・年次	看護学科・2年次
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 長家 智子	基礎看護学領域 看護師免許保有
准教授	中村 真理子	成人看護学領域 看護師免許保有
准教授	園田 和子	公衆衛生看護学領域 看護師・保健師免許保有
講師	権藤 多栄	基礎看護学領域 看護師免許保有
講師	姜 旻廷	基礎看護学領域 看護師免許保有
講師	山口 今日子	成人看護学領域 看護師免許保有
講師	丸山 智子	成人看護学領域 看護師免許保有
講師	山本 弘恵	高齢者看護学領域 看護師免許保有
講師	小山 記代子	小児看護学領域 看護師免許保有
講師	前原 敬子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有
講師	川口 弥恵子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有
講師	宮崎 初	精神看護学領域 看護師・保健師免許保有
助教	溝口 晶子	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	竹井 千里	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	井上 由美子	成人看護学領域 看護師免許保有
助教	野田 優子	小児看護学領域 看護師免許保有
助教	日高 朱里	母性・助産学領域 看護師・保健師・助産師免許保有
助教	栗原 はるか	精神看護学領域 看護師・保健師免許保有
助教	小川 有希子	地域看護学領域 看護師・保健師免許保有

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー：(1)(2)

※対応するカリキュラムポリシー：(2)

- 1.患者や医療チームメンバーとの人間関係を築くことができる。
- 2.看護に対して興味・関心や探求心を持ち、看護実践に参加できる。
- 3.患者の心身の状態や入院生活における健康問題を明らかにし、解決策を立案・実践・評価ができる。
- 4.安全・安楽に配慮した日常生活の援助を実践できる。

授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	基礎看護学実習Ⅱ	実習方法は、別途実習要項を参照	実習

授業概要

既習の知識・技術を統合しながら、受け持ち患者に応じた日常生活行動に関する看護ケアを実践する基礎的能力を養うことを目指す。看護過程の一連のプロセスを経験しながら、受け持ち患者を中心に、その患者の状況に応じた日常生活援助の実践的過程を学ぶ。また患者との関わりのなかで円滑な人間関係を築くための基礎的な能力の習得を図る。この基礎看護学実習Ⅱの学びは、今後の各領域実習の基盤となる。

授業形式

実習

評価方法

■実習評価 実習評価基準による評価

教科書 (ISBN 番号)

看護学概論、看護援助技術Ⅰ(看護基本技術)、看護援助技術Ⅱ(日常生活の援助技術)、看護援助技術Ⅲ(診断・治療に伴う援助技術)、看護援助技術Ⅳ(フィジカルアセスメント)、看護援助技術Ⅴ(看護過程)で使用した教科書

参考書

その都度お知らせします。

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

講義コード	1N41100	
講義名	成人看護学概論 03	
(副題)	実務経験がある教員による授業科目	
開講責任部署		
講義開講時期	後期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	1時限	
科目分類名	専門実践分野	
科目分野名	成人看護学	
対象学科・年次	看護学科・2年	
必修/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 村田 節子	地域医療薬学センター

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー: (2)

1. 成人の定義について説明できる。
2. ライフサイクルにおける成人の位置づけと成人保健の動向を説明できる。
3. 成人各期の特徴について説明できる。
4. 成人各期の健康問題とその予防について説明できる。
5. 成人への看護に有用な概念を説明できる。
6. 成人期にある人々を対象とする経過別看護の特徴を説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	村田 節子	ガイダンス 成人期にある人の特徴と健康問題	授業の進め方、履修上の注意など 1) 成人の様々な定義の比較・成人とは何か 2) 社会の中の生活者観点と成人の役割について 3) 成人看護の重要概念	講義及びディスカッション
第2回	村田 節子	成長発達に応じた成人各期の特徴と健康問題	1) 成人各期の健康問題の特徴と要因 2) 成人各期の健康問題に対する対策	講義及びディスカッション
第3回	村田 節子	社会の構造・ライフスタイルと健康	1) 社会構造やライフスタイルと健康問題の関連 2) 職業と職業病の原因と対策 3) 健康増進と社会インフラとの関係及び諸外国との比較	講義及びディスカッション
第4回	村田 節子	成人の生活と社会システム	1) クオリティオブライフについて 2) 保健・医療・福祉のシステムと制度	講義及びディスカッション
第5回	村田 節子	侵襲の大きな治療を受ける対象者の心理特性	1) 心的なストレスと身体的反応 2) 危機理論の歴史的発展 3) 重要な危機理論について 4) 危機に関連した重要な概念 (ストレス、コーピング、悲嘆、喪失、不安、恐怖)	講義及びディスカッション
第6回	村田 節子	経過別看護: クリティカル期の看護	1) クリティカルケア看護の基本的概念 2) クリティカルケア看護師に求められる能力 3) クリティカルケアの場所と特徴 4) クリティカル期の主な病態とケア	講義及びディスカッション
第7回	村田 節子	経過別看護: 急性期・回復期の看護①	1) 急性期、回復期の概念 2) 急激な健康破綻を起こす要因 3) 侵襲による神経内分泌反応やサイトカインの働き	講義及びディスカッション

第 8 回	村田 節子	経過別看護:急性期・回復期の看護②	1)急性期にある対象者の特徴 2)生体の侵襲からの回復過程について 3)侵襲の大きい治療(手術を中心に)からの回復と合併症の予防について(事例を用いて) 4)急性期にある対象者の家族の看護について	講義及びディスカッション
第 9 回	村田 節子	リハビリテーション看護①	1)リハビリテーションの歴史と概念の変遷 2)リハビリテーションの理念と定義 3)リハビリテーションを受ける人の心理特性	講義及びディスカッション
第 10 回	村田 節子	リハビリテーション看護②	1)成人のリハビリテーション分野とその内容 2)ノーマライゼーション 3)ICF の概念 4)リハビリテーション	講義及びディスカッション
第 11 回	村田 節子	経過別看護:慢性期の看護①	1)病みの軌跡 2)セルフケア 3)慢性期にある対象者のセルフケアについて(事例を用いて)	講義及びディスカッション
第 12 回	村田 節子	経過別看護:慢性期の看護①	1)セルフマネジメント 2)コンプライアンス、アドヒアランス、コンコーダンスの概念 3)自己効力、エンパワメント 4)慢性期にある対象者のケアについて(事例を用いて)	講義及びディスカッション
第 13 回	村田 節子	経過別看護:終末期の看護①	1)終末期医療の現状と終末期の概念 2)終末期にある対象者及びその家族の心理過程 3)終末期の症状 4)死の概念・定義	講義及びディスカッション
第 14 回	村田 節子	経過別看護:終末期の看護②	1)悲嘆のプロセス、トータルペインについて 2)喪失 3)スピリチュアルケア	講義及びディスカッション
第 15 回	村田 節子	成人看護学概論のまとめ	成人看護学概論の振り返り	講義

授業概要

成人は社会の原動力となる中心的存在である。「生活者」としての成人を理解し、ライフサイクルにおける成人期の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな特徴を学ぶ。成人の成長発達の特徴と成人各期の健康を維持・増進又は阻害する要因について学ぶ。また、成人期の対象者とその家族にとって最適な生活を目指す看護者としての視点の基本を学ぶ。

授業形式

講義及び小グループでのディスカッション

評価方法

■定期試験 60%、レポート 40%(レポートの提出が一定基準を満たさないものは評価対象とならない)

教科書 (ISBN 番号)

南江堂 「成人看護学概論」改訂第3版
(ISBN978-4-5242-4176-7)

参考書

医学書院 「成人看護学総論」、厚生労働省統計協会「国民衛生の動向」

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

備考

事前学習:事前にシラバスの学習項目について予習を行い、講義を受ける。
事後学修:教員の指定した内容についてディスカッションを行い、講義の項目に沿ってレポートを作成する(レポート課題は、各講義のレジュメで指示する)。

講義コード	1N42100
講義名	高齢者看護学概論 03
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門実践分野
科目分野名	高齢者看護学
対象学科・年次	看護学科・2年次
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中尾 久子	高齢者看護学領域 看護師免許保有
講師	山本 弘恵	高齢者看護学領域 看護師免許保有

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー: (2)

1. 高齢者の身体的、心理的、社会的特徴について概要を説明できる。
2. 加齢に伴う身体的変化が高齢者の生活に与える影響について説明できる。
3. 高齢者と家族の多様な関係のありようについて説明できる。
4. 高齢者を支える社会制度の全体像について説明できる。
5. 介護保険施設のそれぞれの特徴とそこでの看護師の役割を述べることができる。
6. 老年期に起こる変化と高齢者の多様性に対応する看護の重要性を述べることができる。
7. 高齢者看護の倫理的課題を述べることができる。
8. 高齢者看護におけるチームアプローチを実践するための基本的知識を理解することができる。
9. 高齢者看護のヘルスプロモーションの必要性について説明できる。
10. 高齢者にとっての生活と経済状態・社会的役割の変化による生活への影響について説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	中尾 久子	講義ガイダンス 高齢者の理解①	講義の進め方、履修上の注意など 高齢者とは、高齢者の特徴と理解	講義
第2回	中尾 久子	高齢者の理解②	高齢者の健康、高齢者とQOL	講義
第3回	中尾 久子	高齢者の理解③	加齢に伴う変化	講義
第4回	山本 弘恵	高齢者を取りまく社会 ①	高齢者の生活と家族、高齢者が生活する場	講義
第5回	山本 弘恵	高齢者を取りまく社会 ②	高齢者を支える制度	講義
第6回	山本 弘恵	高齢者を取りまく社会 ③	高齢者を支える社会資源、地域包括ケア	講義
第7回	山本 弘恵	生活・療養の場における看護	介護保険施設、地域密着型サービス、デイサービス・デイケア、在宅	講義
第8回	中尾 久子	高齢者看護の基本①	高齢者看護の特性、高齢者看護に関わる諸理論	講義
第9回	中尾 久子	高齢者看護の基本②	高齢者看護における倫理	講義
第10回	中尾 久子	高齢者看護の基本③	高齢者に対するアセスメント、高齢者のバイタルサインの特性、高齢者によくみられる疾患	講義
第11回	中尾 久子	高齢者看護の基本④	高齢者看護におけるチームアプローチ、高齢者のリスクマネジメント	講義

第 12 回	山本 弘恵	高齢者看護のヘルスプロモーション	高齢者の健康づくり、生活習慣病予防、転倒予防、認知症予防	講義
第 13 回	山本 弘恵	生活を支える看護①	コミュニケーション、食生活、セクシュアリティ	講義
第 14 回	山本 弘恵	生活を支える看護②	住まい、経済状態、社会参加	講義
第 15 回	中尾 久子	高齢者看護学概論のまとめ	高齢者看護学概論の振り返りと理解度確認	講義

授業概要

地域で生活する高齢者とのふれあいを通して学んだ高齢者看護学実習Ⅰでの学修を基盤とし、高齢者看護学を学ぶにあたっての考え方の基本、他の領域あるいは社会制度との関連を理解する。高齢者の身体的、心理的、社会的特徴と、個々の生きてきた生活史、社会状況の変化から高齢者を理解することを学ぶ。また、加齢や社会的役割の変化がどのように生活に影響するのかを理解し、さまざまな健康レベルにおける看護援助のあり方、チームで関わることの必要性を学ぶ。さらに今後、高齢者看護援助論、高齢者看護学実習Ⅱへと学修をつないでいく。

授業形式

講義

評価方法

■定期試験 ■小テスト
定期試験 90%、小テスト 10%

教科書 (ISBN 番号)

《系統看護学講座 専門分野Ⅱ》
老年看護学第9版(9784260031868)医学書院

参考書

その都度お知らせします。

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

講義コード	1N43100
講義名	小児看護学概論 03
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類名	専門実践分野
科目分野名	小児看護学
対象学科・年次	看護学科・2年次
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 濱田 裕子	小児看護学領域 看護師・保健師免許保有
講師	小山 記代子	小児看護学領域 看護師免許保有

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー: (2)

- 1.小児看護の特徴と役割について自分の考えを述べるができる。
- 2.子どもの権利と小児看護における倫理について説明できる。
- 3.子どもを理解するための発達理論について説明できる。
- 4.子どもの家族を理解するための家族理論について説明できる。
- 5.乳児期の子どもと家族の特徴および、健康問題について説明できる。
- 6.幼児期の子どもと家族の特徴および、健康問題について説明できる。
- 7.学童期の子どもと家族の特徴および、健康問題について説明できる。
- 8.思春期(AYA世代)の子どもと家族の特徴および、健康問題について説明できる。
- 9.子どもと家族の生活の実際について考え子どもの健康増進につながる課題を探求できる。
- 10.子どもの健康障害が、子ども自身に及ぼす影響について自分の考えを述べるができる。
- 11.子どもの健康障害が家族に与える影響について自分の考えを述べるができる。
- 12.子どものヘルスプロモーションの概念と予防医学の考え方に沿った援助について説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	濱田 裕子	講義ガイダンス 小児看護の特徴と理念	講義の進め方、履修上の注意など 小児看護とは 小児看護の歴史と意義変遷 小児看護と法律・施策 子どもの健康の概念 子どものヘルスプロモーション	講義
第2回	濱田 裕子	小児看護における倫理	小児看護における倫理 子どもの権利と看護	講義
第3回	濱田 裕子	子どもの理解のための発達理論	セルフケア理論 自我発達理論 認知発達理論 親子関係論	講義

第4回	濱田 裕子	子どもと家族	子どもにとっての家族 家族発達理論 家族システム理論	講義
第5回	濱田 裕子	乳児期の子どもと家族	乳児期の特徴と家族の特徴 乳児期によくみられる健康問題 乳児のいる家族への看護	講義
第6回	濱田 裕子	幼児期の子どもと家族1	幼児期の特徴と家族の特徴 乳幼児期の食行動の発達(離乳食の確立) 遊びの意義	講義
第7回	濱田 裕子	幼児期の子どもと家族2	生活習慣の獲得 子どもの感染症と予防接種 幼児期によくみられる健康問題	講義
第8回	濱田 裕子	学童期の子どもと家族	学童期の特徴と家族の特徴 学童によくみられる健康問題 学童期の子どものセルフケアの発達と看護	講義
第9回	濱田 裕子	思春期の子どもと家族	思春期の特徴と家族の特徴 思春期によくみられる健康問題	講義
第10回	濱田 裕子 小山 記代子	子どもと家族の生活の実際1	現代の子どもと家族の生活の実際について 自らが課題を探索する	演習
第11回	濱田 裕子 小山 記代子	子どもと家族の生活の実際2	現代の子どもと家族の生活の実際について 探索した課題をまとめプレゼンテーションをする	演習
第12回	濱田 裕子	子どもの虐待と看護	子どもの虐待とは リスク要因と発生の予防・早期発見 関連制度と支援	講義
第13回	濱田 裕子	疾病をもつ子どもと家族の看護	子どもの病気の理解 健康障害に伴う子どものストレスと対処 子どものストレス対処への支援 病気の子どもの家族のストレスと支援	講義
第14回	濱田 裕子	障害のある子どもと家族の看護	障害のとらえ方 障害のある子どもと家族の特徴 障害のある子どもと家族の支援	講義
第15回	濱田 裕子 小山 記代子	小児看護におけるトピックス まとめ	トピックス(臓器移植など) 小児看護学概論の振り返りと理解度確認	講義

授業概要

小児医療および小児看護学の変遷と専門性および我が国の小児保健と児童福祉施策を学ぶ。小児看護の特徴と理念をふまえ、成長発達過程にある子どもとその家族を理解するための発達理論や家族理論を概観し、子どもの発達の特徴と子どもを育てる家族について学ぶ。また、子どもの発達段階ごとの特徴と家族の特徴を理解し、発達段階に特徴的な健康問題と健康支援について、学ぶ。さらに、子どものヘルスプロモーションの概念を理解し、子どもの健やかな成長発達を促すための健康支援について学ぶとともに、子どもが病気や障がいをもつことによる影響とその看護について、学ぶ。さらに子どもを家族のなかの存在として位置づけ、子どもだけでなく家族も看護の対象とし、現代の子どもと家族の特徴およびその環境について理解し、家族支援の視点についても学ぶ。

授業形式

講義・演習

評価方法

■定期試験 ■レポート ■その他(プレゼンテーション)
定期試験 80%、レポート 10%、演習の取り組みと発表 10%

教科書 (ISBN 番号)

《ナーシング・グラフィカ 小児看護学 1》
小児の発達と看護第 6 版(9784840465151)メディカ出版

参考書

その都度お知らせします。

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

講義コード	1N44100
講義名	母性看護学概論 03
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類名	専門実践分野
科目分野名	母性看護学
対象学科・年次	看護学科・2年次
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 平田 伸子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有
講師	前原 敬子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー: (2)

- 母性看護の理念と目的を説明できる。
- 母性看護に関する変遷と現状を説明できる。
- 女性のライフサイクル各期の特徴・健康問題とその看護を説明できる。
- リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から女性の健康問題を説明できる。
- 国際社会におけるわが国の女性の位置づけと自己決定を関連付けて説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	平田 伸子	母性看護の概念	母性とは 親になること・女性の一生 母子関係と家族発達	講義
第2回	前原 敬子	母性看護の概念	セクシャリティ、発達と課題 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ヘルスプロモーション 母性看護のあり方	講義
第3回	前原 敬子	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	母性看護の歴史的変遷と現状 母性看護の対象を取り巻く環境、母子保健をめぐる課題	講義
第4回	前原 敬子	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	子育て支援 現状と課題 子育て支援施策	講義
第5回	前原 敬子	母性看護の対象理解	生殖器の形態と機能の変化 妊娠と胎児の性分化 多様な性 現代女性のライフサイクル	講義
第6回	前原 敬子	ライフステージ各期の健康問題①	ライフステージ各期の健康問題と看護 テーマ選択とグループワーク	講義 演習
第7回	前原 敬子	ライフステージ各期の健康問題②	ライフステージ各期の健康問題と看護 テーマ選択とグループワーク	講義 演習
第8回	前原 敬子	ライフステージ各期の健康問題③	ライフステージ各期の健康問題と看護 テーマ選択とグループワーク	講義 演習

第9回	前原 敬子	ライフステージ各期の健康問題(発表)①	グループワーク発表	演習
第10回	前原 敬子	ライフステージ各期の健康問題(発表)②	グループワーク発表	演習
第11回	前原 敬子	ライフステージ各期の健康問題 まとめ	女性の健康と看護の必要性	講義
第12回	前原 敬子	リプロダクティブヘルスケア	家族計画・不妊に悩む女性への支援・性感染症とその予防・HIVに感染した女性に対する看護・人工妊娠中絶と看護	講義
第13回	前原 敬子	リプロダクティブヘルスケア	喫煙女性の健康と看護・国際化社会と看護	講義
第14回	平田 伸子	ウィメンズヘルスの現状と課題	性暴力を受けた女性に対する看護 児童虐待と看護	講義
第15回	平田 伸子	ウィメンズヘルスの現状と課題、まとめ	女性の自己決定・自立支援	講義

授業概要

少産少子の進展により、少ない子どもを計画的に産み育て、なおかつ、出産を満足のいく体験にしようという姿勢は今後も助長されていくであろう。このような背景において、人としての性と生殖の意義を理解し、女性の一生を通しての健康の保持・増進と母性機能を円滑に遂行していくための母性看護の役割についてについて学習する。さらに、女性のライフステージ各期の健康問題と看護、さらに、ウィメンズヘルスの現状と課題から途上国等の女性の健康問題を考察し、これからの女性の自立について学ぶ。

授業形式

講義、演習

評価方法

■定期試験 ■その他(演習)

定期試験 80%、演習 20%

教科書(ISBN 番号)

《系統看護学講座 専門分野Ⅱ》

母性看護学1 母性看護学概論第14版(9784260042253)医学書院

参考書

その都度お知らせします。

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

学生へのメッセージ

日頃から雑誌、新聞などの母子保健、女性保健に関する情報に関心をもって読むこと。

講義コード	1N44200
講義名	母性看護援助論 I 03
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	講義・演習
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類名	専門実践分野
科目分野名	母性看護学
対象学科・年次	看護学科・2年次
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 川口 弥恵子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有
教授	平田 伸子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有
講師	前原 敬子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有
助教	日高 朱里	母性・助産学領域 看護師・保健師・助産師免許保有

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー: (2)

1. 妊婦・産婦の正常な経過が説明できる。
2. 妊婦・産婦に特徴的な疾患及びハイリスク妊娠・異常分娩とその看護について説明できる。
3. 妊婦・産婦とその家族の心理的・社会的特徴とその看護について説明できる。
4. 妊婦・産婦の自己決定能力やセルフケア能力が維持・促進できる看護について説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	川口 弥恵子	講義ガイダンス 妊娠期の看護	講義の進め方、履修上の注意など 正常な妊娠経過 妊娠の生理 妊娠の定義、成立、胎盤の形成・機能、胎児の生理	講義
第2回	川口 弥恵子	妊娠期の看護	母体の生理的変化 妊娠期の心理・社会的特性	講義
第3回	川口 弥恵子	妊娠期の看護	妊婦と胎児のアセスメント 妊娠とその診断 妊娠期に伴う検査と目的 胎児の発育と健康状態	講義
第4回	川口 弥恵子	妊娠期の看護	妊婦の健康診査・妊娠の診察法 妊娠期の経過診断	講義
第5回	川口 弥恵子	妊娠期の看護	妊娠期の健康生活診断 妊婦の健康管理・保健相談 分娩準備と分娩準備教育	講義
第6回	川口 弥恵子	ハイリスク妊娠	影響要因、妊娠中経過中の異常、合併する全身疾患、妊娠高血圧症候群・常位胎盤早期剥離・妊娠糖尿病・前置胎盤・切迫流早産	講義
第7回	川口 弥恵子 平田 伸子 前原 敬子 日高 朱里	妊娠期の看護	妊婦体験 妊婦健診の計測（腹囲 子宮底） レオポルド触診法・乳房チェック	演習

第 8 回	前原 敬子	分娩期の看護	分娩の3要素 分娩の経過:分娩第1期・分娩第2期・分娩第3期・分娩第4期 分娩の定義	講義
第 9 回	前原 敬子	分娩期の看護	分娩の機序 分娩の進行と産婦の身体的変化、	講義
第 10 回	前原 敬子	分娩の経過	胎児に及ぼす影響、胎児モニタリングの判読、産婦の生活行動の変化、産婦の心理・社会的変化	講義
第 11 回	前原 敬子	分娩期の看護	分娩期の経過診断と看護	講義
第 12 回	前原 敬子	分娩期の看護	分娩期の健康生活診断と看護	講義
第 13 回	前原 敬子	異常分娩期の看護	分娩異常と異常のある産婦の看護 産道の異常・娩出力の異常・胎児付属物の異常、分娩時異常出血、破水時の看護、遷延分娩のリスクがある産婦の看護、異常出血のある産婦の看護	講義
第 14 回	前原 敬子	異常分娩期の看護	腹式帝王切開術を受ける患者への看護 適応、術式、術前準備、術後のケア、心理的適応、家族ケア、児との早期接触	講義
第 15 回	川口 弥恵子 平田 伸子 前原 敬子 日高 朱里	分娩期の看護 母性看護援助論 I のまとめ	分娩の進行に伴う呼吸法・リラクセス法、補助動作、圧迫法・マッサージ 母性看護援助論 I (妊婦・産婦)の振り返りと理解度確認	演習

授業概要

妊婦が健康で快適な生活を送ることができるよう妊娠の経過を身体的・心理的・社会的側面から理解し、家族を含めた看護援助の方法、看護展開を学ぶ。分娩経過・機序を理解する。分娩期にある産婦の分娩進行がスムーズに進むように、分娩が胎児に与える影響、胎児の健康状態を把握するための看護について学ぶ。産婦の安全・安楽、主体的出産のための看護について考え、援助内容を学ぶ。また、正常から逸脱した異常分娩とその看護について学ぶ。

授業形式

講義・演習

評価方法

■定期試験 筆記試験 100%

教科書 (ISBN 番号)

《系統看護学講座 専門分野Ⅱ》

母性看護学 2 母性看護学各論第 14 版 (9784260042239) 医学書院

参考書

その都度お知らせします。

オフィスアワー(授業相談)

水曜日 13時から18時

その他いつでもメールで対応できます。気軽にお尋ねください。

学生へのメッセージ

母性看護援助論 I では、女性の一生のうち妊娠期・分娩期を中心に学びます。皆さんが将来看護師になって対応する患者さんの半分は女性です。産婦人科疾患領域だけでなく、どの領域の女性を看護するときにも、「妊娠・出産を将来経験する・すでに経験した・あるいは経験しないことを選択した性をもつ人」として理解することを希望します。女性とその家族にとって、とても重要なライフイベントである妊娠期・分娩期を共に学びましょう。

講義コード	1N45100
講義名	精神看護学概論 03
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類名	専門実践分野
科目分野名	精神看護学
対象学科・年次	看護学科・2年次
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安藤 満代	精神看護学領域 看護師免許保有
講師	宮崎 初	精神看護学領域 看護師・保健師免許保有

求められる基本的な資質

精神医療や看護の歴史から現状を捉え、現状の問題や課題を探求しようとする姿勢をもっている。心(精神)を病む人の心身状況、また病気をもっていることが、社会で生きていく上での影響を理解し、患者と家族をケアしていこうという気持ちを持っている。

一般目標(GIO)

1. 障害の捉え方を理解するとともに、精神障害者が地域で生活することの重要性を理解できる。
2. 精神医療や看護の歴史を知り、精神医療における問題や課題について自ら考えることができる。
3. 精神障害をもつ人の心身の状態を理解し、看護の役割やケアの方法について考えることができる。
4. 精神障害者の家族へのケアについて考えることができる。
5. 多様な治療環境や療養環境における精神看護について考えることができる。

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー：(1)(2)(3)

※対応するカリキュラムポリシー：(2)

1. ライフサイクルにおける脳の精神機能と生理機能の発達について理解することができる。
2. 社会生活を送る人間が精神を病むとはどういうことか考えることができる。
3. 精神医療の現状と課題について理解することができる。
4. 精神医療施設で治療を受ける人々と、その看護について理解することができる。
5. 人間にとっての小社会である家族とは何かについて考えることができる。
6. 家族療法の変遷と理論について理解することができる。
7. 精神看護の役割の拡大について理解することができる。
8. 精神看護学の基本的な考え方について理解することができる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	安藤 満代	講義ガイダンス 精神障害についての基本的な考え方	講義の進め方、履修上の注意など 障害のとらえ方、社会変化とメンタルヘルス、精神障害が生じるきっかけとプロセス、対象理解の難しさ、精神障害とともに生きるということ(地域共生社会)	講義
第2回	安藤 満代	ライフサイクルにおける脳の精神機能と生理機能の発達	人間の脳の精神機能と生理機能の発達、人格の発達と情緒体験、人生各期の発達課題	講義
第3回	安藤 満代	嗜癖と依存	嗜癖・依存のとらえ方、嗜癖に問題を持つ人の理解とケア	講義
第4回	安藤 満代	精神医療の現状と課題 ①	看護の倫理と人権擁護、精神医療の歴史と看護	講義

第5回	安藤 満代	精神医療の現状と課題②	精神保健医療福祉をめぐる法律	講義
第6回	安藤 満代	精神医療の現状と課題③	現代の精神医療の特徴と課題	講義
第7回	宮崎 初	統合失調症を持つ人の理解とケア	統合失調症を持つ人の理解とケア	講義
第8回	宮崎 初	うつ病を持つ人の理解とケア	うつ病を持つ人の理解とケア	講義
第9回	安藤 満代	精神障害を持つ人の家族へのケア	家族とは何か、家族をみる視点、精神障害を持つ人の家族がおかれている現状、課題とケア	講義
第10回	宮崎 初	精神看護における対象者の理解①	ケース像の形成の仕方、精神症状の査定 (Mental Status Examination)	講義
第11回	宮崎 初	精神看護における対象者の理解②	セルフケア理論、ストレングスモデル	講義
第12回	宮崎 初	入院環境と治療的アプローチ 精神看護におけるケアの方法	入院環境と治療の関係性、「治療的関わり」の考え方 セルフケアの援助、精神療法・薬物療法に関わる援助	講義
第13回	宮崎 初	精神保健活動とリハビリテーション	リハビリテーションの考え方、地域精神保健活動における社会資源の活用	講義
第14回	宮崎 初	救急医療現場における患者支援と精神的関わり	救急医療現場における患者支援と精神的関わり	講義
第15回	安藤 満代	ストレスマネジメントと精神看護の役割 精神看護学概論のまとめ	ストレスマネジメントと精神看護の役割 精神看護学概論のまとめ	講義

授業概要

1年次の「メンタルヘルス論」、「看護倫理」、2年次の「医療コミュニケーション学」の学修を基盤とし、「臨床医学論Ⅱ(精神医学領域)」の学習と並行して、精神看護学に関する現状と専門知識を取得する科目である。発達をライフサイクルに沿ってとらえた後に、人間にとっての小社会である家族とは何かについて学び、家族療法の意味について考える。また、精神・身体に疾患を持つ人、地域で生活する人などの事例を解きながら、あらゆる状況下の人を精神看護の対象者とし、看護学的に捉え、理解できるように導く。

授業形式

講義

評価方法

■定期試験 ■レポート
定期試験 70%、レポート 30%

教科書 (ISBN 番号)

1. ナーシング・グラフィカ 精神看護学 1 情緒発達と精神看護の基本 第4版 (9784840453837) メディカ出版
2. ナーシング・グラフィカ 精神看護学 2 精神看護と看護の実践 第4版 (9784840453844) メディカ出版

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

学生へのメッセージ

メンタルヘルス論では、誰にも必要な精神や心に関係する知識やケアについて学修しました。それを踏まえて、精神看護学概論では、精神疾患をもった方、精神障害をもった方へのケアについて学修します。精神医療に関連する法律などもよく変わりますので、それらにも注意し、どのような流れになっているか、そして今後、どうあればよいのかなどを一緒に考えてみましょう。

講義コード	1N51100	
講義名	在宅看護概論 03	
(副題)	実務経験がある教員による授業科目	
開講責任部署		
講義開講時期	後期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	看護統合分野	
科目分野名	地域看護学	
対象学科・年次	看護学科・2年次	
必修/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 西田 和子	地域看護学領域 看護師・保健師・助産師免許保有

求められる基本的な資質

在宅看護の対象者は療養者が生活する場に直接出向く看護であり、個々の生活を大切にすること、療養者・家族の思いや願いに寄り沿うこと、療養上の問題解決に必要な「療養者・家族の意思決定」を支援することが重要な看護であることを基本とする。

一般目標(GIO)

1. 日本の在宅看護が推進される社会的背景を理解する。
2. 在宅ケアにおける在宅看護の概念・特徴・役割・機能を理解する。
3. 日本の在宅看護に特有の問題を倫理的思考や概念を用いて整理する。

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー：(1)(2)(3)

※対応するカリキュラムポリシー：(5)

- 1.日本の在宅看護の変遷とその社会的背景について説明できる。
- 2.在宅看護の目的と基本理念、関連する概念について理解できる。
- 3.在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を理解できる。
- 4.在宅療養者への看護における看護者としての役割・機能を説明できる。
- 5.在宅ケアにおけるケアマネジメントや関係機関・関係職種間の連携を理解できる。
- 6.在宅ケアを支える制度や社会資源を説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	西田 和子	講義ガイダンス 在宅看護の概念	講義の進め方、履修上の注意など 日本の在宅看護の歴史と現状、地域療養を支える在宅看護の役割・機能	講義
第2回	西田 和子	在宅看護の基本理念	在宅看護を展開するための基本理念、在宅看護における倫理	講義
第3回	西田 和子	在宅療養者と家族の支援	在宅看護の対象者とその家族、在宅療養の成立要件	講義
第4回	西田 和子	在宅療養者と家族の支援	在宅看護と家族、在宅療養者の家族への支援	講義
第5回	西田 和子	地域包括ケアシステムにおける在宅看護	多職種・多機関連携、在宅看護のケースマネジメント/ケアマネジメントの概要	講義
第6回	西田 和子	地域療養を支える制度	社会資源、医療保険制度、介護保険制度、等	講義
第7回	西田 和子	地域療養を支える制度	障がい者に関連する法律等	講義

第 8 回	西田 和子	地域療養を支える制度	子どもの在宅療養を支える制度と社会資源、在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源	講義
第 9 回	西田 和子	地域療養を支える制度	高齢者施策	講義
第 10 回	西田 和子	在宅療養を支える訪問看護	訪問看護の特徴、在宅ケアを支える訪問看護ステーション	講義
第 11 回	西田 和子	在宅療養を支える訪問看護	訪問看護サービスの展開、訪問看護記録	講義
第 12 回	西田 和子	在宅看護における安全と健康危機管理	在宅看護における危機管理、日常生活における安全管理、災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	講義
第 13 回	西田 和子	在宅における援助技術	生活ケアと医療的ケア、生活ケアの援助技術、医療的ケアの援助技術	講義
第 14 回	西田 和子	在宅看護の事例	様々な高齢者の事例、在宅療養の重症心身障害児 など	講義
第 15 回	西田 和子	在宅看護概論のまとめ	在宅看護の動向と今後の展望	講義

授業概要

在宅看護の変遷やその社会背景をはじめ、在宅看護の目的・基本的な理念や関連する概念を学ぶ。在宅看護の対象者の特性と支援のあり方、ならびにその支援の基盤となる訪問看護制度を学ぶ。さらに、在宅ケアにおけるケアマネジメントや地域包括ケアシステムの基本、関係機関・職種との連携の必要性、社会資源を学ぶ。さらに今後、在宅看護援助論、在宅看護論実習へと学修をつないでいく。

授業形式

講義

評価方法

■定期試験 ■小テスト
定期試験 80%、小テスト 20%

教科書 (ISBN 番号)

《ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 I》
地域療養を支えるケア 第 6 版 (9784840465205)メディカ出版

参考書

最新版の国民衛生の動向(開始年の 8 月末に発刊される)

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

学生へのメッセージ

1 年次に学んだ地域包括ケアシステム論、2 年前期で学んだ公衆衛生看護学概論を基に、地域で療養している療養者とその家族の個々の生活状況に応じた看護ケアが提供できるよう、基本を学び応用できる柔軟な考え方・技術を身に付ける視点を忘れないようしましょう。

講義コード	1N51300
講義名	公衆衛生看護学概論 03
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類名	看護統合分野
科目分野名	地域看護学
対象学科・年次	看護学科・2年次
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西地 令子	公衆衛生看護学領域 看護師・保健師免許保有

求められる基本的な資質

- ・今後も看護職として地域看護や公衆衛生看護活動に携わる機会が多い中、その意義を理解し積極的に学修する態度が求められる。
- ・学びを自分自身の言葉で表現する力や考察した内容を理論的に記述する能力を醸成する。

一般目標(GIO)

1. 地域の人々健康な生活を支援する公衆衛生看護活動の意義と看護職の役割を理解する。
2. 公衆衛生看護活動の歴史と変遷から、行政が行う住民への保健活動の意義を理解する。
3. 公衆衛生看護学の基本的視点であるヘルスプロモーションを学び、その重要性を理解する。
4. 公衆衛生看護活動を実践する個別的・集団的援助技術の方法を理解する。
5. 公衆衛生看護活動における看護職の役割を考察する。

到達目標(SBO)

1. 公衆衛生看護学の対象と特性が説明できる。
2. 公衆衛生行政の変遷から看護職の役割が考察できる。
3. 公衆衛生と権利擁護、看護倫理が考察できる。
4. 保健所及び市町村の組織と機能及び保健活動の内容が説明できる。
5. 公衆衛生看護活動における健康危機管理の概要と意義が説明できる。
6. 地区診断の概要とその理論、手法が説明できる。
7. 公衆衛生看護援助技術の概要が説明できる。
8. 個別援助技術の理論とその手法が説明できる。
9. 保健師が行う家庭訪問の基本と意義が説明できる。
10. 集団援助技術(健康教育、グループ支援)の理論、意義、その手法が説明できる。
11. 公衆衛生看護活動におけるコミュニティワークの意義が理解できる。
12. 公衆衛生看護活動における国際協力・交流の意義が理解できる。

※対応するディプロマポリシー：(1)(2)(3)

※対応するカリキュラムポリシー：(5)

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	西地 令子	講義ガイダンス 公衆衛生看護の基盤①	講義の受け方、評価方法等の説明 公衆衛生看護の定義・目的・役割 公衆衛生看護活動の対象と場 公衆衛生と看護職～現在の課題から～	講義
第2回	西地 令子	公衆衛生看護の基盤②	公衆衛生の根本理論と活動 プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの進化、実際例	講義

第3回	西地 令子	公衆衛生看護の基盤③	健康危機管理の成り立ちと定義、健康危機管理の組織体制	講義
第4回	西地 令子	公衆衛生看護の基盤④	国際保健における公衆衛生活動と看護 (国際協力、国際交流、WHO 活動) 公衆衛生活動における人権擁護と倫理(1)	講義
第5回	西地 令子	公衆衛生看護の基盤⑤	公衆衛生活動における人権擁護と倫理(2) 地域で生活する権利(わが国の感染症の対策と人権問題)「風の舞」 DVDを視聴して、レポート提出①	講義
第6回	西地 令子	公衆衛生看護の基盤⑥	わが国の健康課題と公衆衛生看護活動の変遷	講義
第7回	西地 令子	公衆衛生看護の基盤⑦	市町村の保健活動(母子保健・成人保健・高齢者保健・障害者保健等の活動と法令)	講義
第8回	西地 令子	公衆衛生看護の基盤⑧	地域保健法と県・保健所の地域保健活動・役割の概要と法令	講義
第9回	西地 令子	公衆衛生看護技術①	地域看護支援技術の基本、行動変容理論 個人援助法:家庭訪問・健康相談による支援、傾聴手法	講義
第10回	西地 令子	公衆衛生看護技術②	傾聴手法の実際 「聞かれない体験・聞く体験」レポート②	講義
第11回	西地 令子	公衆衛生看護技術③	集団援助技術の基本:集団へのアプローチ (ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ)健康診査、健康教育手法(1)	講義
第12回	西地 令子	公衆衛生看護技術④	集団・地域への支援(コミュニティワーク) 健康教育手法(2)、グループ支援技術 地域ケアマネジメント	講義
第13回	西地 令子	公衆衛生看護技術⑤	公衆衛生看護管理技術 地域診断の理論と手法、コミュニティ・アズ・パートナーモデル、プリシード・プロシードモデル	講義
第14回	西地 令子	公衆衛生看護技術⑥	プリシード・プロシードのプチ演習 「なりたい自分になる」PPMで考えてみよう レポート③	講義
第15回	西地 令子	総括	公衆衛生看護活動の総括 地域保健への展開に向けて	講義

授業概要

少子高齢社会のなか、公衆衛生看護活動では予防の重要性が強うたわれ、健康な地域づくりが重要な課題である。さらに、在宅看護の需要の拡大から療養支援には生活の視点が重要になっている。このため、多くの看護職が地域看護の視点を持つことが求められ、公衆衛生看護学(地域看護学)は、保健師だけでなく看護師にとっても必要不可欠な学問である。

本科目では、地域の人々の健康な生活を支援する公衆衛生看護学の目的と方法に関する基礎的な知識を教授する。社会生活を営む上で生じる健康課題を把握する方法や地域での健康づくり活動の方法を学ぶ。また、公衆衛生看護学の基本的視点であるプライマリヘルスケアおよびヘルスプロモーションを学び、その必要性を理解する。

実際、昨年度からの新型コロナウイルス感染症禍での看護職の負担が大きいことが明らかになった。今後は、健康危機対策の基本、公衆衛生看護活動の対象の場と特徴を理解し、看護職の今後の役割を考察する。

授業形式

講義・演習

評価方法

■定期試験 ■その他:レポート等

記述試験 70%、レポート 25%(レポート①10点、レポート②5点、レポート③5点)、意欲・態度 5%

教科書(ISBN 番号)

公衆衛生看護学 第2版(9784805854624)中央法規出版

参考書

①奥山則子 他(最新版).標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論.東京,医学書院.

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

学生へのメッセージ

公衆衛生看護活動は、すべての人の健康や QOL の向上を最終目標としているため、看護の基本的理念を根源としています。そのためには、健康・福祉施策の制度や法律等も学ばなければなりません。これらのことは看護職としての対象者（患者）のためだけでなく、あなた自身や家族を守るためにも役立ちます。主体的かつ積極的な学修を期待しています。

備考

原則、対面式授業です。状況によって、リモート授業になった場合は、zoom 形式を採用します。皆さんが 1 コマ 1 回は発言できる機会を設けていますので、予めご了承ください。

講義コード	1N53100
講義名	国際看護学 03
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
時間	15.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類名	看護統合分野
科目分野名	領域横断展開科目
対象学科・年次	看護学科・2年次
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉武 毅人	成人看護学領域 医師経験あり
教授	村田 節子	地域医療薬学センター
教授	長家 智子	基礎看護学領域 看護師免許保有
教授	濱田 裕子	小児看護学領域 看護師・保健師免許保有
教授	平田 伸子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有
教授	安藤 満代	精神看護学領域 看護師免許保有
教授	西田 和子	地域看護学領域 看護師・保健師・助産師免許保有

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3) (4) (5)

※対応するカリキュラムポリシー: (3) (5)

- 1.国際看護学の定義、国際看護学に関連する基礎知識について理解できる。
- 2.保健医療分野の開発理念の変遷、世界の健康問題の現状について概説できる。
- 3.国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関とその調整について概説できる。
- 4.多様な文化背景を持つ人々の生活の支援に必要な能力を理解できる。
- 5.諸外国の看護・保健ニーズ、諸外国における支援の在り方や国際協力について理解できる。
- 6.国際看護学における倫理、教育、研究の特性について説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	吉武 毅人	講義ガイダンス 国際看護学とは	講義の進め方、履修上の注意など 国際看護学の定義 国際看護学に関連する基礎知識	講義
第2回	吉武 毅人	グローバルヘルス	保健医療分野の開発理念の変遷 世界の健康問題の現状	講義
第3回	吉武 毅人	国際協力のしくみ	国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関とその調整	講義
第4回	村田 節子	開発協力と看護	開発協力の概況と健康 開発協力における保健医療の概念と看護 開発途上国と看護 開発途上国における国際看護の展開	講義
第5回	村田 節子	異文化理解と国際看護活動	文化としての人間理解 文化を考慮した看護 国際看護活動に必要な能力	講義

第6回	村田 節子	国際看護活動の支援を必要とする対象	国際看護活動が扱う範囲 海外における看護活動 在日外国人への看護活動	講義
第7回	平田 伸子	国際母子保健	諸外国の母子保健 海外在住日本人の母子保健 在日外国人の母子保健	講義
第8回	平田 伸子 長家 智子 村田 節子 吉武 毅人 濱田 裕子 安藤 満代 西田 和子	国際看護学の発展に向けて 国際看護学のまとめ	国際看護活動情報とこれからのグローバル看護 国際看護学の振り返りと理解度確認	討議

授業概要

グローバル化により在日外国人、諸外国での保健・医療活動や国境を越えた看護実践の機会も増えている。様々な国や地域、民族における文化や価値観の多様性を知り、国際的な視野に立ち、国際社会における保健・医療・福祉の現状と課題について、また国際社会・多様な文化における看護職の役割について学修する。世界の人々の生活と健康課題の問題解決に向けた国際協力の在り方と看護活動に必要な専門知識について学ぶことをねらいとする。

授業形式

講義、討議

評価方法

■レポート 100%

教科書 (ISBN 番号)

《看護学テキスト Nice》
国際看護 (ISBN 9784524252640) 南江堂

参考書

その都度お知らせします。

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

講義コード	1N55200
講義名	看護学研究Ⅱ03
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	講義・演習
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類名	看護統合分野
科目分野名	看護学研究科目
対象学科・年次	看護学科・2年次
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 濱田 裕子	小児看護学領域 看護師・保健師免許保有
教授	村田 節子	地域医療薬学センター
教授	長家 智子	基礎看護学領域 看護師免許保有
教授	吉武 毅人	成人看護学領域 医師経験あり
教授	中尾 久子	高齢者看護学領域 看護師免許保有
教授	平田 伸子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有
教授	安藤 満代	精神看護学領域 看護師免許保有
教授	西田 和子	地域看護学領域 看護師・保健師・助産師免許保有
教授	西地 令子	公衆衛生看護学領域 看護師・保健師免許保有
准教授	中村 眞理子	成人看護学領域 看護師免許保有
准教授	渡邊 美保	高齢者看護学領域 看護師・保健師免許保有
准教授	園田 和子	公衆衛生看護学領域 看護師・保健師免許保有
講師	権藤 多栄	基礎看護学領域 看護師免許保有
講師	姜 旻廷	基礎看護学領域 看護師免許保有
講師	山本 弘恵	高齢者看護学領域 看護師免許保有
講師	小山 記代子	小児看護学領域 看護師免許保有
講師	前原 敬子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有
講師	川口 弥恵子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有
講師	宮崎 初	精神看護学領域 看護師・保健師免許保有
助教	溝口 晶子	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	竹井 千里	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	野田 優子	小児看護学領域 看護師免許保有
助教	日高 朱里	母性・助産学領域 看護師・保健師・助産師免許保有
助教	栗原 はるか	精神看護学領域 看護師・保健師免許保有
助教	小川 有希子	地域看護学領域 看護師・保健師免許保有

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー：(1)(2)

※対応するカリキュラムポリシー：(5)

1.看護研究の意義や目的について説明することができる。

- 2.看護研究における倫理的配慮について説明することができる。
- 3.研究デザインについて説明することができる。
- 4.研究計画書の作成プロセスについて説明することができる。
- 5.自らの研究課題に関して、系統的に文献(原著論文)検索しレビューすることができる。
- 6.検索した文献(原著論文)を読みクリティークを行うことができる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	濱田裕子 村田節子 長家智子 吉武毅人 中尾久子 平田伸子 安藤満代 西田和子 西地令子 中村真理子 渡邊美保 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎初 溝口晶子 竹井千里 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子	講義ガイダンス 看護研究とは	講義の進め方、履修上の注意など 看護における研究と課題 研究対象者の権利と倫理的配慮	講義
第2回	濱田裕子 村田節子 長家智子 吉武毅人 中尾久子 平田伸子 安藤満代 西田和子 西地令子 中村真理子 渡邊美保 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎初 溝口晶子 竹井千里 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子	文献検討	文献検討の意義 文献検索の資料と活用の仕方 文献の読み方 文献整理の方法 文献検討の構成と記述	講義
第3回	濱田裕子 村田節子 長家智子 吉武毅人	概念枠組みと仮説	念枠組みの構築、考え方 変数の明確化 仮説の設定	講義

	<p>中尾久子 平田伸子 安藤満代 西田和子 西地令子 中村眞理子 渡邊美保 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎初 溝口晶子 竹井千里 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子</p>	<p>研究デザイン</p>	<p>研究過程における研究デザインの位置づけ 研究デザインの種類</p>	
第4回	<p>濱田裕子 村田節子 長家智子 吉武毅人 中尾久子 平田伸子 安藤満代 西田和子 西地令子 中村眞理子 渡邊美保 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎初 溝口晶子 竹井千里 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子</p>	<p>研究デザイン</p> <p>1 実験研究</p> <p>2 仮説検証型研究</p>	<p>実験研究の特徴 実験研究の長所と短所 準実験研究</p> <p>仮説検証型研究の特徴 仮説検証型研究の長所と短所</p>	講義
第5回	<p>濱田裕子 村田節子 長家智子 吉武毅人 中尾久子 平田伸子 安藤満代 西田和子 西地令子 中村眞理子 渡邊美保 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山本弘恵 小山記代子</p>	<p>研究デザイン</p> <p>3 実態調査研究</p> <p>4 事例研究</p> <p>5 方法論的研究</p>	<p>実態調査研究の特徴 実態調査研究の長所と短所</p> <p>事例検討と事例研究の相違、 事例研究の特徴 事例研究の長所と短所</p> <p>方法論的研究の特徴 方法論的研究の長所と短所</p> <p>データ、標本の選択、データ収集法 質的データ分析、量的データ分析</p>	講義

	前原敬子 川口弥恵子 宮崎初 溝口晶子 竹井千里 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子			
第 6 回	濱田裕子 村田節子 長家智子 吉武毅人 中尾久子 平田伸子 安藤満代 西田和子 西地令子 中村眞理子 渡邊美保 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎初 溝口晶子 竹井千里 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子	研究計画書	研究計画書作成までのプロセス 研究計画書の意義と作成上の注意点 研究計画書の形式 研究計画書の例	講義
第 7 回	濱田裕子 村田節子 長家智子 吉武毅人 中尾久子 平田伸子 安藤満代 西田和子 西地令子 中村眞理子 渡邊美保 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎初 溝口晶子 竹井千里 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子	データ収集 データの分析	データの収集 データの収集方法 母集団、標本抽出 データの集計、 記述統計、推定統計	講義
第 8 回	濱田裕子 村田節子 長家智子	研究結果の活用	研究結果の表現方法、 研究発表の形式	講義

	吉武毅人 中尾久子 平田伸子 安藤満代 西田和子 西地令子 中村眞理子 渡邊美保 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎初 溝口晶子 竹井千里 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子		研究論文の構成方法、 研究論文の評価方法	
第 9 回	濱田裕子 村田節子 長家智子 吉武毅人 中尾久子 平田伸子 安藤満代 西田和子 西地令子 中村眞理子 渡邊美保 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎初 溝口晶子 竹井千里 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子	文献検索とクリティーク (実施)	文献検索、クリティーク原著論文を読み、クリティークの実施	演習
第 10 回	濱田裕子 村田節子 長家智子 吉武毅人 中尾久子 平田伸子 安藤満代 西田和子 西地令子 中村眞理子 渡邊美保 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山本弘恵	文献検索とクリティーク (実施)	文献検索、クリティーク原著論文を読み、クリティークの実施	演習

	小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎初 溝口晶子 竹井千里 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子			
第 11 回	濱田裕子 村田節子 長家智子 吉武毅人 中尾久子 平田伸子 安藤満代 西田和子 西地令子 中村真理子 渡邊美保 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎初 溝口晶子 竹井千里 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子	文献検索とクリティーク (実施)	文献検索、クリティーク原著論文を読み、クリティークの実施	演習
第 12 回	濱田裕子 村田節子 長家智子 吉武毅人 中尾久子 平田伸子 安藤満代 西田和子 西地令子 中村真理子 渡邊美保 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎初 溝口晶子 竹井千里 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子	文献検索とクリティーク (実施)	文献検索、クリティーク原著論文を読み、クリティークの実施	演習
第 13 回	濱田裕子 村田節子	文献検索とクリティーク (実施)	文献検索、クリティーク原著論文を読み、クリティークの実施	演習

	長家智子 吉武毅人 中尾久子 平田伸子 安藤満代 西田和子 西地令子 中村眞理子 渡邊美保 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎初 溝口晶子 竹井千里 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子			
第 14 回	濱田裕子 村田節子 長家智子 吉武毅人 中尾久子 平田伸子 安藤満代 西田和子 西地令子 中村眞理子 渡邊美保 園田和子 権藤多栄 姜 旻廷 山本弘恵 小山記代子 前原敬子 川口弥恵子 宮崎初 溝口晶子 竹井千里 野田優子 日高朱里 栗原はるか 小川有希子	クリティーク全体発表	各ゼミでのクリティーク全体発表	演習
第 15 回	濱田裕子	質的・帰納的研究 看護学研究Ⅱのまとめ	研究の前提(量的アプローチ、質的アプローチ) 質的記述的研究デザインの種類 看護学研究Ⅱの振り返りと理解度確認	講義

授業概要

看護学研究Ⅰでの学修を基盤とし、保健医療福祉の現場で起こっている事象に問題意識を持ち、問題発見、問題探索・分析、倫理的思考などの能力を身につける。研究方法と研究の目的との関連性を理解し、看護研究を進める上での基盤となる研究方法を学ぶ。具体的には研究デザイン、データの収集、データの分析、研究結果、研究の種類と研究プロセスの活用について学ぶ。また、各領域の教授を中心とするゼミ形式において自らの研究課題に関して、系統的に文献(原著論文)を検索、さらに検索した文献(原著論文)を読み、クリティークを行い、各ゼミでクリティークの発表を行なう。ここでの学びを今後、看護学研究Ⅲへと学修をつないでいく。

授業形式
講義、演習
評価方法
■レポート ■その他(クリティークの取り組み) レポート 20% クリティークの取り組み 80%
教科書(ISBN 番号)
看護における研究 第2版 日本看護協会出版会(ISBN 978-4-81802-066-5)
参考書
その都度お知らせします。
オフィスアワー(授業相談)
初回講義時、お知らせします。

講義コード	1N12100
講義名	医療コミュニケーション学 03
(副題)	実務経験がある教員による授業科目
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	講義・演習
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類名	教養・基礎分野
科目分野名	社会科学科目
対象学科・年次	看護学科・2年次
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
(非常勤)講師	◎ 荒木 登茂子	福岡徳洲会病院

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー:(1)

※対応するカリキュラムポリシー:(1)

1. 自分が考えたことを、メモ書きにまとめ、それをもとにスピーチすることができるようになる。
2. 数人のグループ・ディスカッションで、司会役を務めることができる。議論終了後に簡単なまとめを報告することができる。
3. 一人で考えることと、グループで考えることの、それぞれ利点と欠点について、具体的な事例を出して指摘することができる。
4. ヘルスコミュニケーションの失敗によって起こった歴史的出来事について、学期中にもっとも興味を持ったものについて情報収集し、5分程度の発表原稿をまとめることができる。
5. この授業を通して学んだ「医学コミュニケーション」の重要性を、自分なりに整理して、中学生レベルの子どもに説明するための原稿を作ることができる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	荒木 登茂子	ヘルスコミュニケーション入門1	健康科学としてのコミュニケーション	講義
第2回	荒木 登茂子	ヘルスコミュニケーション入門2	医療現場におけるコミュニケーション	講義
第3回	荒木 登茂子	ヘルスコミュニケーション入門3	コミュニケーション不全という問題	講義
第4回	荒木 登茂子	ヘルスコミュニケーション入門4	医療コミュニケーションにおけるコミュニケーションの実際	講義
第5回	荒木 登茂子	対話力	言語と感情、「考え」と「気持ち」を伝えることの相違点、対話機能	講義
第6回	荒木 登茂子	プレゼンテーション能力	口説による論証プレゼンテーション	講義
第7回	荒木 登茂子	専門家間のコミュニケーション	多職種連携とリーダーシップ	講義
第8回	荒木 登茂子	患者とのコミュニケーション1	患者・家族と信頼関係を作るための基本的知識と技術	講義
第9回	荒木 登茂子	患者とのコミュニケーション2	患者・家族と信頼関係を作るための基本的知識と技術の 実践	講義
第10回	荒木 登茂子	科学をめぐる紛争	科学革命の構造、公害、薬害、裁判法定、裁判外紛争解決	講義
第11回	荒木 登茂子	研究倫理	コミュニケーションデザインとしての研究倫理	講義
第12回	荒木 登茂子	臨床コミュニケーション1	臨床コミュニケーションの基本構造	講義
第13回	荒木 登茂子	臨床コミュニケーション2	疾患に応じたコミュニケーションのタイプ	講義
第14回	荒木 登茂子	ヘルスプロモーション	疾患情報、治療情報、健康政策	講義
第15回	荒木 登茂子	ヘルスコミュニケーション	コミュニケーションにおける自己課題の明確化	講義

授業概要

医療コミュニケーション学(ヘルスコミュニケーション学)では、医療従事者として、医療専門職間、医療専門職と患者・家族間等における健康や医療に関連した知識や情報などを共有するため、コミュニケーションに関する理論をもとに、基礎的な知識と技術を学ぶ。本講義では、(1)個人のプレゼンテーション能力、(2)チームで議論できる能力、(3)医学的知識を非専門家に口頭で伝える能力、(4)過去に医療コミュニケーションの失敗によって起きた問題や紛争から学ぶ能力、(5)医療にまつわる社会政策に専門家としてどのように取り組むのかを考える能力等を育み、受講者のコミュニケーション能力を多角的な角度から成長させることを目的とする。

授業形式

テーマに基づいた追加資料の配布やグループワークを行うことがある。

評価方法

定期試験 60%、レポート 40%

教科書 (ISBN 番号)

系統看護学講座 基礎分野 心理学 第6版(医学書院)(ISBN978-4-26002-768-7)

参考書

医療コミュニケーション 日本医療企画 ISBN978-4-89041-938-8

オフィスアワー(授業相談)

木曜日:講義終了後
(随時教務課経由で対応します)

学生へのメッセージ

座学に加えて実習を通して知識を体験的に学ぶこと、自分で考える力を身に着けることを重視します

備考

授業で話されること、議論されたことを記録しまとめる能力を養いましょう。授業終了後に、興味をもったテーマについて短いエッセーを書く習慣をつけること、これらのことを常に心がけるようにしてください。

講義コード	1N13700	
講義名	医療統計学(保健師課程必修)03	
(副題)		
開講責任部署		
講義開講時期	後期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	1時限	
科目分類名	教養・基礎分野	
科目分野名	自然科学科目	
対象学科・年次	看護学科・2年次	
必修/選択	選択(保健師課程必修)	
担当教員		
職種	氏名	所属
講師	◎大久保 勇輔	基礎教育講座 薬学教育推進センター 基礎数学分野

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー:(1)

※対応するカリキュラムポリシー:(1)(6)

- 保健統計の種類と健康指標に関する事柄の理解について修得する。
- 人口統計の基礎、人口静態統計、人口動態統計、生命表について修得する。
- 疾病統計、保健医療資源統計、医療保健統計、学校保健統計について修得する。
- 統計調査の記述的解析の実際(代表値、散布度、グラフ表現、度数分布、正規分布)について修得する。
- 調査データの統計的推論(母集団と標本、仮設検定、仮設検定における過誤)について修得する。
- 調査データの統計的推論(平均値の差の比較、割合の差の比較、t検定)について修得する。
- 統計調査の記述的解析の実際(χ^2 検定、独立性の検定、単純集計、クロス集計)について修得する。
- 調査データの統計的推論(相関、相関の検定、直線回帰)について修得する。
- 調査データの統計的推論(母平均の区間推定、母比率の区間推定)について修得する。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	大久保 勇輔	保健統計の種類と健康指標	保健統計とは、直接的健康指標、間接的健康指標などについて 統計資料の見方について	講義
第2回	大久保 勇輔	疾病・障害及び死因の分類/ 出生・死亡統計	国際疾病分類(ICD)、死亡診断書、原死因、死因の動向 人口動態調査、出生率、死亡率、年齢調整死亡率	講義
第3回	大久保 勇輔	生命表と人口静態	生命関数、平均余命、平均寿命、年次推移と国際比較 国勢調査、人口ピラミッド	講義
第4回	大久保 勇輔	保健所における公衆衛生情報	罹患率と有病率、患者調査、国民生活基礎調査、感染症発生 動向調査 学校保健統計、労働衛生統計、身体障害者(児)実態調査 保健医療資源統計、医療費、医療保健統計、生活環境統計	講義
第5回	大久保 勇輔	統計調査の記述的解析の実際1	代表値、散布度、グラフ表現 度数分布、正規分布	講義

第 6 回	大久保 勇輔	調査データの統計的推論1	母集団と標本 推定と区間推定	講義
第 7 回	大久保 勇輔	調査データの統計的推論2	母平均の区間推定、母比率の区間推定	講義
第 8 回	大久保 勇輔	調査データの統計的推論3	仮設検定、仮設検定における過誤	講義
第 9 回	大久保 勇輔	調査データの統計的推論4	平均に関する推定と検定	講義
第 10 回	大久保 勇輔	調査データの統計的推論5	割合に関する推定と検定	講義
第 11 回	大久保 勇輔	統計調査の記述的解析の実際2	統計調査の記述的解析の実際	講義
第 12 回	大久保 勇輔	調査データの統計的	関係を調べる方法	講義
第 13 回	大久保 勇輔	調査データの統計的推論7	多変量解析	講義
第 14 回	大久保 勇輔	医療統計学のまとめ1	演習問題とその解説	講義
第 15 回	大久保 勇輔	医療統計学のまとめ2	演習問題とその解説	講義

授業概要

集団における健康現象の観察や統計処理の基礎となる統計学の主要概念、基礎理論、解析方法について概説します。また、看護職として科学的な思考のもと医療・公衆衛生活動を実践する上で大切な保健統計に関して、既存の資料を素材にして各種データの処理方法や解析方法について学びます。

授業形式

指定した教科書に沿って講義形式にて授業を行います。授業内容の理解度の確認のために、後半に問題演習を行います。

評価方法

■定期試験 100%

教科書(ISBN 番号)

楽しく学べる！看護学生のための疫学・保健統計 改訂 3 版南山堂(9784525053437)

参考書

国民衛生の動向 厚生指標 増刊 厚生労働統計協会編 (厚生労働統計協会)
保健統計学・疫学 福富和夫、橋本修二 (南山堂)

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

備考

重要な用語について、その内容を説明できるようにする。
当該期間に 30 時間以上の予復習が必要。